

年次報告 2009

Annual Report 2009

SNAPLA
NEE

遠いを近いに。



特定非営利活動法人

シナプス・ネットワーク

＝市民による海外協力の会

目次

3	はじめに
4	中期方針（2007-2011）の進ちよく状況
6	2009 年度報告と 2010 年度計画概要
9	パートナー団体一覧
14	2009 年度報告および 2010 年度計画
33	付表
36	2009 年度決算と 2010 年度収支予算
42	役員一覧
43	主な掲載記事
44	シャプラニール用語集

はじめに

シャプラニールは、2009年度もまた、多くの皆さまに支えられて、着実に前進できました。バングラデシュでは、約10年前から進めてきた、現地活動の直接実施方式からパートナー方式への転換がほぼ完了したと言えます。既存の農村パートナー団体が名実ともに自立する一方で、JJSとYPSAという新たなパートナー団体との本格的な協力に向けて大きく動き出しています。都市での活動も順調で、現地社会に広く働きかけるという方針に沿った活動も展開できています。ネパールでも、地域社会や政を巻き込みながら住民主体で活動するという方針が、都市部でも農村部でも確実に具体化しています。

日本国内に目を移せば、景気のさらなる低迷、特に低価格競争激化のためでしょうか、手工芸品の売上が伸び悩むなど順調といえない部分もありましたが、その一方で、寄付は順調に伸びるなど、組織としての底力を改めて感じさせていただきました。

世界を震撼させた金融危機の影響から日本経済はまだ立ち直れていませんが、インドは言うにおよばずバングラデシュでも立ち直りは比較的早かったようで、両国とも数字上では順調な経済成長を遂げています。経済成長によって新たな雇用が生まれ、人々に希望を与えることができるという側面を経済成長の光とするなら、それに伴う影の部分もまた大きくなっています。特に、都市への人口の集中に伴う都市貧困層の増大と生活環境の悪化。その裏返しとしての、農村部からの人材の流出と自然環境の劣化など、問題は深刻の度合いを深めています。経済成長著しいインドやバングラデシュのみならず、政治的な混乱により経済が伸び悩んでいるネパールでも同様の現象が起こっています。経済成長というよりむしろ、近代化の進展に伴う現象なのでしょう。

経済が右肩上がりの開発途上国では「取り残された人々」が増える一方で、人口も経済も縮小している日本で増加している貧困層の問題は「切り捨てられる人々」の問題と言えるでしょう。個人も組織も既得権益の擁護に走り、それが社会全体の閉塞感を増幅させ、社会的心理的な孤立感も深まっています。そのような中、閉塞感や孤立感を打破するためのアイデアやエネルギーを、少しでも得ることができないとすれば、シャプラニールが掲げる「市民による海外協力」にどんな意味があるというのでしょうか。

民主党政権の誕生は、国際協力やNGO／NPOにとっての新たな時代の到来を予感させています。事業仕分けなどにより、ODAへの逆風が強まる一方で、NGOへの支援は大幅に強化されるようです。そうした中、現地での活動の充実や組織基盤の安定に安住することなく、市民による海外協力に実質的な意味を与えていくためには何をどうしていくべきなのか、ともに考えるだけでなく、方向性を示し、行動として具体化していく必要に迫られています。私たちの活動が、人と人を繋ぐ力を一層強めていけるよう、本年もともに歩んで行きましょう。

2010年6月
代表理事

中田豊一

中期方針（2007～2011）の進ちよく状況

2007年度会員総会において承認された「中期方針(2007～2011)」は、5カ年のシャプラニールの活動の方向性をうたったもので、8つの基本方針があげられている。2007年度はこの基本方針に従って、5カ年の具体的な活動計画と財務諸表を立案した。ここでは、2009年度の各方針の進ちよく状況について、おもだったものを報告する。また、2009年度は中期方針を見直し・変更をせず、このまま進めることを確認した。

基本方針	
1. 「取り残された人々」への取り組みを強化します	<ul style="list-style-type: none"> ◎バングラデシュ農村では、寡婦・障がして働く少女に対して活動を行ってサイクロンや洪水常襲地域での活動が ◎ネパール農村では、河川のはんらんがる取り組みに対するパイロット事業が
2. 「取り残された人々」を取り巻く周辺の組織や人々にも積極的に働きかけていきます	<ul style="list-style-type: none"> ◎バングラデシュのストリートチルドレうになってきている。家事使用人としてマスメディアを通じたキャンペーン展 ◎ネパールでは働く子どもたち支援活動
3. 日本のわたしたちも当事者という認識とそれに基づいた行動を広げていくために、情報発信や具体的な活動の場やしくみを創っていきます (ア) 市民による海外協力の輪を広げる (イ) 社会構造を変えるための提言・行動 (ウ) 私たちの生活のあり方の問い直し (エ) 国際機関、行政、企業との連携強化	<ul style="list-style-type: none"> ◎事務局長が支援者と交流し、シャプラ ◎全国キャラバンを通して、国内のNP ◎市民が暮らしをよくするために参加で作成やさまざまな機会に講演した。 ◎新聞・ラジオ・雑誌などで気軽にでき ◎ウェブサイト进行全面改訂し、活動・理
4. 媒介者として当事者同士の経験交流やネットワーキングに努めます	<ul style="list-style-type: none"> ◎青少年を農村活動の中に位置づけてい ◎理事や職員をインドへ派遣し、今後の ◎国内で活動している民間グループとの
5. 「生産者の生活向上」を第一としてクラフトリンクの活動を進めていきます	<ul style="list-style-type: none"> ◎生産者の生活向上のため販売拡大に注 ◎生産者の生活状況の変化をみるための ◎さらなる販売力強化のため、品質の改 ◎フェアトレード団体としての存在感を ◎WFTO（世界フェアトレード機関）*への
6. 「取り残された人々」の現実および問題の構造を深く理解し、それを適切に支援していくための技能を高めていきます	<ul style="list-style-type: none"> ◎東京事務局では、能力向上のため、職 ◎バングラデシュ・ネパールでは現地職
7. これまで力を入れてこなかった他の分野・地域についても可能性を探ります	<ul style="list-style-type: none"> ◎バングラデシュ・ネパールともに災害 ◎次世代に続く青少年を開発の担い手と ◎家事使用人として働く少女への支援」有した。
8. 理解者・支援者を増やし組織を一層充実させます	<ul style="list-style-type: none"> ◎認定NPO法人*に認定された。 ◎マンスリーサポーターキャンペーンで ◎シャプラニールを分かりやすく伝える ◎働く環境を整備するために就業規則の

現在の進ちょく状況	詳細掲載ページ
<p>い者・エスニックマイノリティ、都市ではストリートチルドレン*・家事使用人*とる。このほかに、地理的に開発から取り残されている地域として、河川の中洲での活動、本格化している。</p> <p>多い地域での貧困住民の収入向上と防災活動が行われている。また、貧困女性に対する実施された。都市では働く子どもたち*への取り組みが行われた。</p>	14 ~ 21
<p>ン支援活動では地域住民が積極的にドロップイン・センターへの寄付の提供を行うよて働く少女たちへの支援については雇用主の活動に対する理解と協力を求めたほか、開を企画している。農村では少年少女たちが中心に進める防災減災事業が開始された。の中で、地域社会（雇用主や住民）との協働が進んだ。</p>	14 ~ 21
<p>ニールの現状を説明する「支援者と会う旅」を福岡（北九州）と山口（宇部）で実施した。Oや市民活動団体と協働し日本の問題と海外協力の共通点について意見交換した。きる「クラフトリンク」では、フェアトレードを社会に向けて発信すべく、DVDのる海外協力として「ステナイ生活」が紹介された。また、新たな企業との協働も進んだ。念を分かりやすく説明することに努めた。</p>	22 ~ 25 26 ~ 30
<p>るバングラデシュの現地 NGO に、パートナー団体の少女たちが訪問した。協働の可能性について検討を行った。協働で、セミナーや交流がはじまった。</p>	14 ~ 21 28 30
<p>力した。</p> <p>モニタリング*をバングラデシュ・ネパールで開始した。</p> <p>善に取り組んでおり、品質基準策定に向けて作業を進めた。</p> <p>高めるため、研究会などへの参加し積極的に発言や書籍での執筆などを行っている。</p> <p>加盟申請手続きを行った。</p>	22 ~ 25
<p>員が他団体が実施する研修に積極的に参加した。</p> <p>員へのファシリテーション研修を行った。</p>	31 ~ 32
<p>常襲地で、防災活動を開発の中に位置づけた取り組みを行っている。</p> <p>して育成するという視点での活動を行っている。</p> <p>の地域拡大を通じ、農村と都市を結びつけて考えるための視点をパートナー団体と共</p>	15、17、19、20
<p>は、約 200 名の方々が、新たにサポーターとなった。</p> <p>ため、マスメディアへのアプローチを強化した。</p> <p>見直しや改定作業を行った。</p>	27 31 ~ 32

2009 年度報告案と 2010 年度計画案概要

(1) 海外活動

急速に経済発展しているバングラデシュでは、そのけん引役として NGO が大きな役割を果たしている。大規模な NGO には海外からの資金（投資）が大量に流れる反面、中小規模の NGO は、活動資金がますます得にくくなっている。他方、政治的な混迷が依然として続いているネパールでは、NGO 活動に対して、規模や内容にいたるまで規制がこれまで以上に厳しくなるのではないかと危惧されている。

このような状況の中、シャプラニールでは一時的な流行に惑わされず、他の NGO や国際機関から支援の届かない最貧困層や家事使用人*として働く少女など「取り残された人々」*への支援に力を注いでいる。同時に、マスメディアを通じた現地社会への問題提起、地域住民の活動への参画や次世代を担う若者や地域住民が担い手となる当事者主体の活動など「取り残された人々」を取り巻く周辺の組織や人々*への働きかけによって社会を変えていくことにも注力し、現地社会への波及的な効果を目指している。

こうした現地でのさまざまなプロジェクトを着実に実行していくために、各プロジェクトを管理するための作業手順および人員体制を構築することが不可欠であり、2009 年度はプロジェクト管理体制を確立し、すべての取り組みの質を強化させることにも努めた。

2009 年度報告

バングラデシュ

- ・チョール（中洲）*における地域開発活動を拡大した。
- ・毎年のように洪水の被害にあう地域やサイクロン被災地域での災害リスク軽減のためのコミュニティ防災*モデル作りを開始した。
- ・ダッカのストリートチルドレン*支援活動は、地域住民からの定期的な食料提供が開始された。
- ・ダッカにおいて家事使用人として働く少女たちの支援活動を 4 カ所のセンターで実施した。

ネパール

- ・貧困層に配慮した地域防災活動では、防災グループによる協同組合がひとつ結成された。
- ・試験的に貧困女性の生活向上支援を 1 年間実施したが、本格的な実施は見送った。

- ・都市の働く子どもたち*への支援活動では、地域住民からの協力が得られるようになっている。

インド

- ・インド活動検討委員会（インドタスクフォース）と調査活動を継続した。

2010 年度計画

バングラデシュ

- ・チョールでの地域開発、少女グループ支援、障がい者支援活動など「取り残された人々」への支援活動を引き続き実施する。
- ・洪水やサイクロンに対応できる地域づくりとして、青少年が担い手となる災害リスク軽減のためのコミュニティ開発を実施する。
- ・ストリートチルドレン支援活動の最終年として、今後の運営体制を構築する。
- ・家事使用人として働く少女たちへの活動は、これまでの成果をバングラデシュ社会に報告するとともに、第二の都市チッタゴンでも新たに活動を開始する。

ネパール

- ・貧困層に配慮した地域防災活動は、防災グループの協同組合登録など当初の予定を終了し、2011 年 1 月より第二段階として新たな活動を開始する。
- ・働く子どもたちへの取り組み最終年として、これまでの経験をネパール社会へ伝える。
- ・取り残された人々および取り残された人々を取り巻く人々への取り組みとして、ネパールでの新規プロジェクトを立案する。

インド

- ・インド活動検討委員会（インドタスクフォース）と小規模資金提供を継続する。
- ・インドに連絡事務所を設置し、今後のインドの活動の拠点とする。

(2) クラフトリンク

世界的な経済不況の中、低価格競争が激化し、フェアトレード*市場、特に雑貨の分野にとっては厳しい状況が続いている。一方で、顧客へのプレゼント用など企業・

団体からの大口注文や、大規模生協のインターネット販売が好調で、今後さらなる可能性を感じさせた。

フェアトレードの業界動向としては、「フェアトレードタウン*」を目指す運動が日本各地でも始まっていること、WFTO（世界フェアトレード機関）*が策定してきた新たな認証システムの導入などがあげられる。

こうした流れの中で、クラフトリンクの活動の位置付けを改めて確認する必要がある。また、より多くの生産者へ仕事の機会を提供するために活動の規模を拡大する意味でも、広報効果を強く意識したキャンペーン展開などにより社会的な関心を得る努力をしていく。その一方で、生産者の視点を忘れず、現場に基づいた着実な活動の継続と情報発信を心がける。

2009 年度報告

- ・店舗への卸は新規取引先が順調に増えた一方、売上は低調だった。通信販売も前年度よりも売上減となった。
- ・ギフト向け商品、リユース商品のラインナップを増やすなど、新たな商品群の開発に力を入れ、成果を挙げている。
- ・クラフトリンクの活動紹介 DVD が完成した。
- ・WFTO への加盟申請手続きを終えた。また日本国内におけるフェアトレードのネットワークにも積極的に参加し、活動の幅を広げる基盤を作った。

2010 年度計画

- ・営業の強化、カタログの充実、イベントやキャンペーン展開により、売上増を目指す。
- ・継続購入が期待できる雑貨の開発、石けんの取り扱いなどにより新たな市場開拓を進める。
- ・フェアトレードの普及・推進に貢献するとともに、モニタリング・評価*作業を継続し年次報告書をまとめるなどにより、活動の信頼性を高めていく。

(3) 国内活動

不況が続き、日本国内の経済格差の拡大や貧困問題などに注目が集まる一方、海外協力への社会の関心はともすれば薄れがちな状況にある。そのような中、シャプラニールは長年にわたる貧困への取り組みを通じた学びを持ちながら、それを有効に用いて支援者拡大につなげることが十分できていない。また、クラフトリンク商品の

購買者やステナイ生活*の協力者から会員やマンスリーサポーターになってもらう工夫や、支援者層やウェブサイトの分析にも改善の余地がある。

こういった課題を整理・分析し、国内での活動や広報に反映させるため、2009 年度後半から役員も交えた「広報タスクフォース」を設置するなどして議論した結果、シャプラニールの姿勢や経験が反映された国内企画（講座など）、支援者やボランティアの参加・参画の場づくりと継続した働きかけの必要性を確認した。2010 年度はこれらを重点においた具体的な取り組みを行っていく。

2009 年度報告

- ・シャプラニールのイメージ統一のため、印刷物のデザインを統一し、ウェブサイトも改訂した。
- ・秋に家事使用人として働く少女の支援活動を講演テーマに「全国キャラバン」を実施した。
- ・12 冊目のブックレットを発行、写真パネルセットの一般貸出を本格化した。
- ・ステナイ生活では協件件数は横ばいとなったものの、金額は目標を達成した。
- ・8 月に中学生・高校生フォーラム、2 月に大学生向けの「The ☆ Forum」を実施した。
- ・「国際協力入門講座」に加え、特定のテーマをもった「もっと知りたい講座」を実施した。
- ・企業や団体の「専門性を活かした協働」を意識した提案を実施、協力が得られた。

2010 年度計画

- ・シャプラニールの認知度を高めるため、マスメディア掲載を意識したキャンペーンを行う。
- ・現地の活動の動きや成果を見えやすくライブ感をもって伝える仕組みをつくる。
- ・日本の貧困問題など国内で関心の高い分野とシャプラニールの活動経験を結びつけた講座を実施する。
- ・ネパールの女性をテーマに全国キャラバンを行い、地域との交流を図る。
- ・支援者やボランティアが集い、交流する「つどい」や中学生・高校生フォーラムなど、さまざまな人たちが参加・参画しやすいイベントの機会を実施する。

(4) 組織と財政

2007年に策定された中期方針とそれに伴う5カ年計画では、組織規模の拡大がうたわれている。しかし、現状では支出の拡大が先行し、収入が追い付いていない。特に海外活動では、事業の拡大に伴い見込んでいた助成金や補助金などの契約をしたものの、申請や手続きの遅れなどから、入金額は予算額から大幅に減少してしまった。こうした状況の中、秋からは、理事会と職員で財政危機のための話し合いが複数回、開かれた。下半期の予算執行を一部見合わせるとともに、予算執行の管理をこれまで以上に綿密に行い、支出の削減に取り組んだ。

このように、組織の財政状況は厳しいが、2009年度には2007年度末に申請していた認定NPO法人*の認定が下りたほか、マンスリーサポーターが順調に増え、「ステナイ生活」を含む寄付金が着実に増加するなど、明るい兆しも見えている。

2009年度報告

- ・マンスリーサポーターの参加が拡大した
- ・業務の効率化を目指し、新しい業務管理システムの導入を準備した。
- ・就業規則を改定した。
- ・寄附金などの税の優遇措置(寄附金控除)の対象となる認定NPO法人を取得した。

2010年度計画

- ・多くの市民が参加する海外協力の会を目指したイベントを開催し、支援者の輪を拡大する。
- ・労働環境の改善のため、2009年度に改定した就業規則を運用する。
- ・外部調査などの業務委託受注を積極的に受託し、知的貢献部門を拡充する。
- ・市民参加のひとつとしてマンスリーサポーターの拡大に力を入れる。

パートナー団体一覧 (2010 年度)

バングラデシュ

PAPRI

(パプリ)

(Poverty Alleviation through Participatory Rural Initiatives)

1999 年、シャプラニールから独立してできた現地 NGO。首都ダッカの北東に位置するノルシンディ県 (人口約 190 万人) 内に活動拠点をもつ中規模 NGO として、マイクロクレジット*、保健衛生など、広く農村開発に取り組む。スタッフ数は 361 人、シャプラニールも含めた全体の年間予算規模はおよそ 4,100 万円。独立した当初はシャプラニールのみをパートナーとしていたが、徐々に組織としての評価を高め、国連開発計画 (UNDP) やユニセフ (UNICEF) などの大きな国際機関とも連携している。

【シャプラニールと実施中のプロジェクト】

プロジェクト名：取り残された人々のエンパワメント*

活動地域：ノルシンディ県内の 2 郡 (含：中洲)

年間予算・スタッフ数：約 795 万円・16 人 (2010 年度)

裨益者数：約 1,100 人、間接的な裨益者を含めると約 4,100 人

活動内容：

(1) チョール (中洲) * における地域開発、(2) 少女グループ支援、(3) 障がい者支援の 3 つの活動に取り組んでいる。それぞれ支援の対象としている人々、一人ひとりが社会の一員として受け入れられ、生活を向上させていけるようになることを目指している。

STEP

(ステップ)

(Step Towards Empowerment of the Poor)

PAPRI と同様、2003 年にシャプラニールから独立してできた現地 NGO。首都ダッカの西に位置するマニクゴンジ県内に 5 カ所、隣接するタンガイル県に 1 カ所の活動拠点をもち、75 人のスタッフを抱えている。現在、シャプラニール以外に 2 つのパートナーとの活動も実施している。年間予算規模は約 2,300 万円。マイクロクレジットの提供を中心とした活動を積極的に拡大しつつ、財源の多様化にも努めている。

【シャプラニールと実施中のプロジェクト】

プロジェクト名：災害リスク軽減のためのコミュニティ開発

活動地域：マニクゴンジ県内の 2 郡

年間予算・スタッフ数：約 1,396 万円・25 人 (2010 年度)

裨益者数：約 1,350 人、間接的な裨益者を含めると 12,400 人

活動内容：

国境をまたぐ大きな河川が交差し、毎年のように大きな被害をもたらす洪水に対応し、社会的弱者の災害リスクの軽減を目指す。そのための核になる存在として思春期の世代の少女グループメンバーに注目し、防災に関する研修、地域住民主体のコミュニティ防災*計画の策定などに取り組む。

バングラデシュ

Aparajeyo・Bangladesh

(オポロジェヨ・バングラデシュ)

TDH (Terre des homes / テレ・デ・ゾム) 財団ローザンヌ (スイス) が、バングラデシュの首都ダッカ市内のスラムで行っていた活動をそのまま引き継ぐ形で、1996年に独立してできた現地 NGO。

子どもの人権を擁護するためのさまざまな取り組みを広く行っており、特にストリートチルドレン*への支援ではバングラデシュで随一の組織として定評がある。国際機関、バングラデシュ政府ともさまざまな連携事業を展開しており、年間予算規模は1億5,600万円、スタッフ総数は565人と、確固たる組織基盤をもっている。シャプラニールとは2001年からのパートナー。

【シャプラニールと実施中のプロジェクト】

プロジェクト名：ストリートチルドレン支援

活動地域：ダッカ市内南東部、サエダバッド、ジャットラバリ地区

年間予算・スタッフ数：約136万円 (Aparajeyo・地域住民・シャプラニールの3者で負担)・16人 (2010年度)

裨益者数：約150人

活動内容：

路上で働き、暮らしている子どもたちを、おとなによる搾取や虐待から保護し、自ら生活を向上していけるようになるために必要な支援に取り組む。現在、ストリートスクール (青空学級) とドロップイン・センター (24時間対応可能な施設) の運営を実施しているが、地域住民へ移譲する方向を決め、準備を開始した。

Phulki

(フルキ)

困難な状況にある女性たちとその子どもたちの生活向上を目的に、1991年に設立された現地 NGO。縫製工場で働く女性のための工場内託児所や、スラム内での託児・幼児教育などを通して低所得層の働く女性たちを支援してきたほか、子どもたち自身が周囲の子どもに学んだことを伝えていく Child to Child アプローチによるスラムの衛生改善などを行っている。社会への政策提言を重視し、企業にも積極的に働きかけた結果、ナイキなどバングラデシュ内に工場をもつ多国籍企業の多くが託児施設を設けることに同意した。代表をはじめスタッフのほとんどが女性。シャプラニールを含め、多くの国際ドナーとパートナーシップで事業を進めており、専門的で質の高い活動が多い。年間予算規模3,660万円、スタッフ数198人。

【シャプラニールと実施中のプロジェクト】

プロジェクト名：家事使用人*として働く少女支援

活動地域：ダッカ市内4つの地区

年間予算・スタッフ数：約310万円・7人 (2010年度)

裨益者数：約300人、間接的な裨益者を含めると約700人

活動内容：

雇用主や地域住民の理解を得るための訪問活動から始め、少女たちが日中集まれる場としてのセンターをスラムや公務員住宅の中に設置、運営している。基礎的な教育から技術研修、レクリエーションの機会を提供するほか、マスメディアを通じて家事使用人の問題を広くバングラデシュ社会に訴えることにも力を入れている。

JJS

(ジェイ・ジェイ・エス)
(Jagrata Juba Shangha)

バングラデシュの南西部、クルナ県を拠点に、女性や子ども、社会的に疎外されてきた人々など、貧しさに立ち向かおうとする人への支援や、基本的な権利を守るための政策提言などに取り組む現地 NGO。1985 年に設立。100 人以上のスタッフを抱え、複数の国際ドナーと連携して多様な活動に取り組んでいるが、これまでマイクロクレジットの提供は行っていない点がユニーク。シャプラニールとは以前から交流があったが、実際にパートナーとして活動に取り組んだのは、2007 年 11 月のサイクロン「シドル」に対する緊急救援が初めて。

【シャプラニールと実施中のプロジェクト】

プロジェクト名：災害リスク軽減のためのコミュニティ開発

活動地域：バゲルハット県ショロンコラ郡ボクルトラ村
年間予算・スタッフ数：約 1,336 万円・19 人 (2010 年度)
裨益者数：直接裨益者 850 人、間接裨益者含めると約 5,400 人

活動内容：

事務所兼用の開発センターを建設し、そこを拠点に青少年少女グループの結成と育成、幼児教室の運営、各種技術研修、農業支援、情報ライブラリーの設置などに取り組んでいる。復興支援活動は 2010 年 1 月末で終了し、2010 年 2 月から災害リスク軽減のためのコミュニティ開発プロジェクトを実施。

YPSA

(イプシャ)
(Young Power in Social Action)

1985 年の国連による「国際青少年の年」に触発され、当時平均年齢 16 歳だった若者 14 人がバングラデシュ第二の都市チッタゴンで社会活動を行うための組織を結成したのが始まり。国連諸機関や各国 ODA をはじめ、世界中の大小さまざまな機関・団体と積極的な連携を進め、現在ではスタッフ数 1,788 人、年間予算 6 億 5,000 万円規模とチッタゴンでも有数の NGO となった。活動分野は社会開発、教育、マイクロファイナンス、保健、HIV/AIDS、災害対策、環境問題など多岐にわたり、サービス提供には直接実施以外に小規模な地元の NGO を通じた支援も実施しているほか、出版やメディアを通じたアドボカシー活動も活発に行っている。大学生のインターンや外国からのボランティア受け入れにも積極的。

【シャプラニールと実施中のプロジェクト】

プロジェクト名：家事使用人*として働く少女支援
活動地域：チッタゴン市内 2 つの地区および近隣の 2 つの農村地区
年間予算・スタッフ数：約 335 万円・11 人 (2010 年度)
裨益者数：約 200 人
活動内容：

2009 年度中に実施した基礎調査をもとに、まずチッタゴン市内で 2 カ所のセンターの設置・運営を行う中で、少女たちが家事使用人として働くことになる要因についての情報収集・分析を行う。

一方、センター設置から 5 カ月後を目途に、少女たちの故郷の村 2 カ所で関係者や地域全体に対する調査を行い、少女たちを家事使用人として送り出す側の要因についての情報収集・分析を行う。この二つを組み合わせ、将来的に未成年の少女が家事使用人として働きに出ずにすむ社会の実現には何が必要なのかを総合的に分析し、次の活動につなげる。

ネパール

CAPCRON

(キャブクロン)

(Center to Assist and Protect Child Rights of Nepal)

子どもの権利条約など、児童に関する法規に専門性をもつ弁護士によって1991年に設立された現地NGO。弁護士だけでなく、ジャーナリストや社会活動家など、多くの人々との全国規模のネットワークをもち、主に働く子どもたち*を対象に、留置所や刑務所に収監された子どもたちの弁護など、法的なサポートに取り組んでいる。専従スタッフもおいているが、弁護士のボランティア活動が中心。年間予算規模約1,200万円、スタッフ数10人の小規模な組織。

【シャプラニールと実施中のプロジェクト】

プロジェクト名：働く子どもたちへの支援

活動地域：カトマンズ市内と近郊のレレ郡

年間予算・スタッフ数：約225万円・7人（2010年度）

裨益者数：約160人

活動内容：

レストランや乗り合いバス、家事使用人として働く子どもたちを搾取と虐待から遠ざけ、安全な生活環境を作り出すための活動を実施。移動教室、巡回診療、ノンフォーマル教育*、通学支援を実施すると同時に、働く子どもたちの問題を雇用主や地域社会に訴え、広く理解を得ていくことに取り組んでいる。

RRN

(アール・アール・エヌ)

(Rural Reconstruction Nepal)

1989年にネパール人によって設立された現地NGO。現在、約280人のスタッフを抱え、裨益人口はおよそ60万人。年間予算規模も日本円に換算して約5億5,000万円と、ネパール最大のNGOのひとつ。特に女性、子ども、低位カーストおよびエスニックグループといった非常に厳しい状況にある人々のエンパワメント*を目指した活動を展開。災害関連、特に洪水、地すべりに対するプロジェクトもこれまで10の郡にわたって実施した経験がある。

【シャプラニールと実施中のプロジェクト】

プロジェクト名：貧困層に配慮した地域防災・開発

活動地域：チトワン郡内の2カ村

年間予算・スタッフ数：約818万円・8人（2010年度）

裨益者数：390世帯から405人がメンバーとして活動に参加。間接的な裨益者数は2カ村の総人口、約13,000人。

活動内容：

洪水被害の頻発する地域のひとつであるチトワン郡において、防災意識の普及、小規模な洪水対策インフラの整備と同時に貧困層の収入向上活動に取り組むことで、災害時に最も深刻な被害を受ける人々の生活が守られるようになることを目指している。

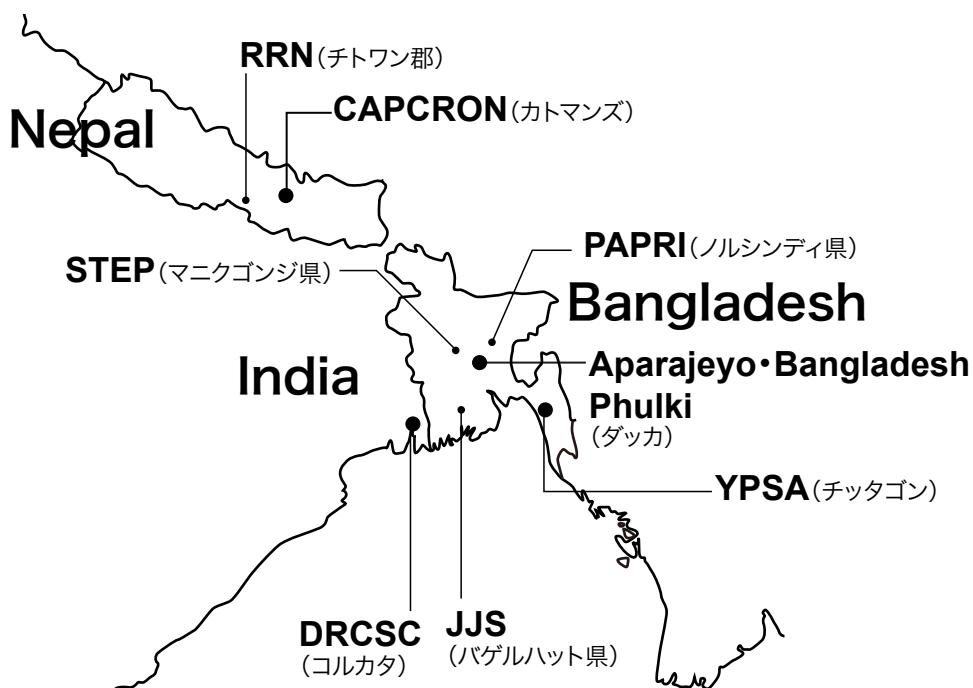
インド

DRCSC

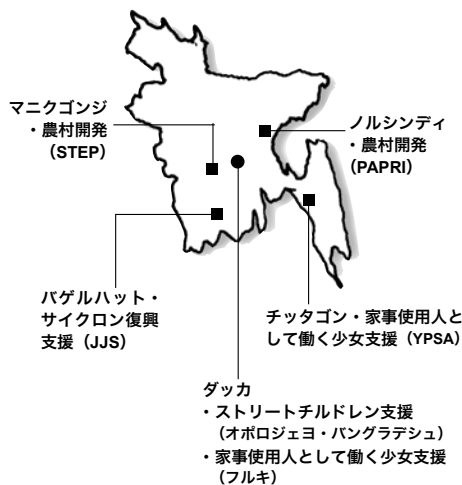
(ディー・アール・シー・エス・シー)

(Development Research Communication & Service Centre)

各地域のもつ資源と生態系を重視し、持続的な農業と農村開発を中心に活動する現地 NGO。1982 年設立。西ベンガル州内 12 県で多くのパートナー団体を持ち、他の州との共同プロジェクトやネットワーキングも行っている。年間予算規模は約 5,400 万円。創設者であるオルデンドウ・S・チャタルジー氏はシャプラニールの古くからの友人で、インドを訪問する際、個人的に知己を得た駐在員も多い。現地スタッフを対象とした研修の講師をしてもらったり、バングラデシュからの研修の受け入れや調整をもらうなど関係が深い。2006 年度から 3 年間、DRCSC をパートナーとした「子どもたちによる環境教育プロジェクト」を実施してきた。2009 年度からの 2 年間は用途をプロジェクトに限定しない、少額の組織支援を行っている。



バングラデシュ



最貧困層メンバーへの竹細工の研修 (パートナー団体：PAPRI)



出張時に少女グループのメンバーにインタビューする筒井 (パートナー団体：STEP)

2009 年度報告

中期方針で示された「取り残された人々」*に対する取り組みと「取り残された人々」を取り巻く周辺の組織や人々*への働きかけを強化した1年となった。農村部では、当事者である最貧困層への取り組みとともに、これからの開発の担い手としても期待している少年少女の育成に力を入れた。また洪水の常襲地やサイクロン被災地域における災害リスク軽減のための活動実施に向けた準備を行い、2009年度後半には事業を開始できた。都市部では、地域住民への働きかけや現地での寄付集めを実践した。

1. 取り残された人々のエンパワメント

～チョール、少女グループ、障がい者支援～
パートナー団体：PAPRI

ノルシンディ県ベラボーおよびライブラ郡において、(1) チョール (中洲) *における地域開発、(2) 少女グループ支援、(3) 障がい者支援の活動に取り組んだ。この3つの活動は3カ年計画の1年目として、それぞれの対象となる人々の状況把握を中心に実施した。チョールでの活動では、新たな地域での活動を開始したほか、読み書きができないまま思春期を迎えた少女たちのための識字教材を新たに作成した。チョール内の住民組織については、PAPRIとともに住民組織の役割を再確認し、2010年度以降本格的な活動を実施していくこととなった。また、障がい者や次世代を担う青少年を対象としたコンピューター研修センターを開設、本格開始に向けた準備を行った。

2. 災害リスク軽減のためのコミュニティ開発

～青少年を担い手として～
パートナー団体：STEP

ここ数年マニクゴンジ県で力を入れて実施してきた少女グループ支援、寡婦*や低カーストなど最貧困層への支援を引き続き実施した。また青少年を担い手とした洪水災害リスク軽減のための新たな活動は、パートナー団体の準備体制が十分でなかったことから2010年2月まで準備期間を延長して活動内容の検討や新規スタッフ雇用などの実施体制の確立に力を注ぎ、2010年3月から本格的な活動を開始した。

3. ストリートチルドレン支援

～地域住民からの食料提供はじまる～
パートナー団体：Aparajeyo-Bangladesh

2011年度以降、ストリートチルドレン*支援活動が地域住民やパートナー団体によって主体的に運営できるよう活動してきた。その結果、地域住民がドロップイン・センターへ米や野菜などの定期的な寄付を行うようになった。またこれまで午前・午後の1日2回実施していたサエダバッドのバスターミナルでのストリートスクールを1日1回午後のみの実施とし、半日は野菜卸市場の近くで新たなストリートスクールを開設した。バスターミナル同様、

1日1回の授業を実施した。

4. 家事使用人として働く少女支援

～バングラデシュ社会への発信～

パートナー団体：Phulki

第2次3カ年計画の2年目として、公務員住宅内に4カ所目となる新規センターを開設し、活動の規模を拡大。それぞれのセンターで少女を対象とした教育や技術研修、レクリエーションなどの活動を行った。また、雇い主やその家族に対する働きかけにも注力し、一部の少女が公立学校へ通うことが出来るようになるなど、少女たちを取り巻く人々の活動に対する理解が広まった。またバングラデシュ社会への問題提起として、ダッカでマスメディアや国際機関、NGO 関係者を集めての意見交換会を実施した。



文字の読み書きの練習する少女たち（パートナー団体：フルキ/バイクパラセンター）

5. サイクロン「シドル」復興支援

～復興から開発へ～

パートナー団体：JJS

2008年5月から実施しているサイクロン復興支援活動は、活動の拠点となる開発センターの建設、生活用水確保のための池の浄化、耕運機貸出による農業支援、困窮家庭への少額無償資金供与、幼児教室を開設するなどの活動を行い、2010年1月をもって終了した。しかし、活動地域であるバゲルハット県ショロンコラ郡ボクルトラ村は、非常に貧しい地域であることから、今後も中長期的取り組みを継続することとし、2010年2月より「サイクロン被災地域における災害リスク軽減のためのコミュニティ開発プロジェクト」として新たな事業を開始した。



サイクロン復興支援の一環として行ったミシン研修（パートナー団体：JJS）

6. その他

(1) 新規プロジェクト

新規プロジェクトとして、バングラデシュ第二の都市チッタゴンにおける家事使用人*として働く少女たちの支援活動を立案した。2009年度には、チッタゴン都市部での少女たちの労働環境などの実態調査を行った。また、新規事業の実施に向けてパートナー NGO の選定を行った。

一方、NGO の寡占化が進む中、良質かつ先駆的な活動に取り組む小規模な現地 NGO への資金提供については、対象候補団体の訪問を実施するに留まった。

(2) ダッカ事務所体制

2009年9月にダッカ事務所長の交代を実施した。また、新規事業立案および各事業の管理運営体制構築のため、ダッカ事務所の現地職員を新たに2名雇用した。

2010 年度計画

2009 年度に取り組みを強化した「取り残された人々」に対する活動や「取り残された人々」を取り巻く周辺の組織や人々への働きかけを、それぞれの活動地域でより本格的に実践していく 1 年とする。

農村部では、当事者である最貧困層への取り組みとともに、地域開発の担い手として期待している青少年の育成を本格的に行い、災害に強い地域づくりに取り組む。都市部では、家事使用人として働く少女たちの活動をバングラデシュ第二の都市チッタゴンでも開始し、雇い主のみならず、広くバングラデシュ社会への働きかけを行う。

NGO の寡占化が進む中での中小 NGO への資金提供については、資金提供の枠組み、支援方法などを確立し、2011 年度初めに資金提供を開始できる体制をつくる。

1. 取り残された人々のエンパワメント

～活動の充実化と中間評価～

パートナー団体：PAPRI



定期的なミーティングで保健衛生について話し合う少女グループ（パートナー団体：PAPRI）

2010 年度は 3 カ年計画の 2 年目として、ノルシンディ県ベラボーおよびライプラ郡において、(1) チョール（中洲）における地域開発、(2) 少女グループ支援、(3) 障がい者支援、(4) 次世代を担う青少年や障がい者へのコンピューター研修活動の充実を目指す。また 2010 年度中には中間評価としてこれまでの活動の評価を行う。

2. 洪水常襲地域における災害リスク軽減のためのコミュニティ開発

～洪水に対応できる地域づくり～

パートナー団体：STEP

少女グループなど青少年が担い手となる災害リスク軽減のための活動を実施することで、新たなコミュニティ防災のモデル構築を目指す。毎年のように大きな被害をもたらす洪水に対応し、社会的弱者の災害リスク軽減につながるような活動を実施していく。

3. サイクロン被災地域における災害リスク軽減のためのコミュニティ開発

～サイクロンに負けない地域づくり～

パートナー団体：JJS



人身売買をテーマにした劇を練習する青少年たち（パートナー団体：JJS）

2007 年のサイクロン「シドル」の被災地において、災害に強い地域づくりのため、次世代を担う青少年少女に視点をあてた災害リスク軽減のためのプロジェクトを実施する。住民が災害から立ち上がれるようにするための生計向上だけでなく、意識啓発活動などに青少年が中心となって関われるようにさまざまな研修を行う。

4. ストリートチルドレン支援

～最終年。地域住民が担い手に～

パートナー団体：Aparajeyo-Bangladesh

2000年より実施してきたドロップイン・センターならびにストリートスクールにおけるストリートチルドレン支援活動が2011年3月をもって終了する。これまでの事業が今後地域住民およびパートナー団体*により主体的に運営がなされるよう、2009年度に引き続き運営体制の構築に注力する。またこれまでのストリートチルドレン支援活動の成果や課題をまとめた記録集などの作成を検討する。



地域住民からお米の寄付を得ている（パートナー団体：オポロジェヨ・バングラデシュ）

5. 家事使用人として働く少女支援

～現地社会へ問題提起、さらに波及力のある活動へ～

パートナー団体：Phulki

第2次3カ年計画の最終年として、4カ所のセンターでのこれまでの活動の評価を実施する。その結果報告もあわせ、バングラデシュ社会への問題提起のためのシンポジウムをダッカで開催する。また2010年度に開始するチッタゴンでの支援活動との相乗効果を期待して、広くバングラデシュ社会に対して、少女たちが家事使用人として働く現実について問題提起していくことができるよう波及力のある活動を計画する。



思春期の身体の変化について学ぶ少女たち（パートナー団体：フルキ/コライルセンター）

6. 家事使用人として働く少女の支援

～バングラデシュ第二の都市での活動開始～

パートナー団体：YPSA

これまでダッカで実施してきた経験をもとに、バングラデシュ第二の都市チッタゴンにおいて家事使用人として働く少女および雇い主を対象とした活動を2010年6月より実施する。少女への支援活動のみならず、彼女たちの出身地であるチッタゴン周辺の農村部でも少女たちの家族や地域住民を対象とした活動を予定している。これについては、2010年度後半、農村部での調査を開始する予定である。

7. その他

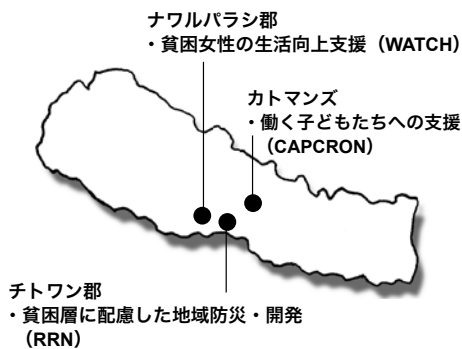
(1) 新規プロジェクト

2009年度に引き続き、良質かつ先駆的な活動に取り組む小規模な現地NGOへの資金提供の開始に向けた枠組み、支援方法を確立し、2011年度初めには資金提供を開始する。また、バングラデシュの少数民族への取り組みについても検討する。

(2) ダッカ事務所体制

2010年度はダッカ駐在員の交代を予定している。また、各プロジェクトが本格化していく中でプロジェクトの管理運営をより強化するため、ダッカ事務所の現地職員を新たに1名雇用する。

ネパール



パートナー団体紹介 (ネパール・農村部)

WATCH

(ウォッチ / Women Acting Together for Change)

1992年に設立されたネパールのNGO。不利な立場にいる人々、特に女性を対象としたコミュニティ開発を農村と都市の双方で実施。2009年の「貧困女性の生活向上支援」でのシャプラニールのパートナー団体。



活動状況のモニタリングのため現場を訪れた駐在員 (パートナー団体: WATCH)



個別カウンセリングを受けたあと野菜栽培に取り組みはじめたベチャニさん (パートナー団体: WATCH)

2009 年度報告

ネパールでは、「貧困層に配慮した地域防災・開発」および「働く子どもたち*への支援」の2つのプロジェクトが、それぞれ約3カ年にわたる計画の中盤を迎え、着実な成果に向けての動きを加速させた。また、1年間、試験的に取り組んだ「貧困女性の生活向上支援」は、パートナー団体と協議する中で、2010年度以降の本格的な活動は見送ることとなった。

1. 貧困層に配慮した地域防災・開発

～活動の継続を見据えた取り組み～

パートナー団体: RRN

3カ年計画の2～3年目にあたる2009年度は、13の防災グループがプロジェクト終了後も活動を継続できるよう、協同組合を結成することとなりその準備を進めた。平野部地域では組合登録のための特別委員会を住民自身がつくり、2009年度内に組合登録のための申請を行い、丘陵部地域では既存の協同組合と機能統合のための準備を行った。また、小規模な護岸工事やハザードマップ(防災地図)の見直しを進め、貧困世帯の収入向上活動も行政との連携による土地なし農民への耕作地の供給とあわせ規模を拡大して実施した。

2. 貧困女性の生活向上支援

～1年間のパイロットプロジェクト実施～

パートナー団体: WATCH

ネパール中西部の平野に位置するナワルパラシ郡内で、1年間のパイロットプロジェクトとして53の女性グループおよび10の障がい者グループ、そして1つの女性グループ連合に対する支援を実施した。生活状況の特に厳しい30人については個別のカウンセリングを行い、初期投資資金の必要なケースに対して別途対応するなど柔軟な取り組みを進め、グループのメンバーが生活向上に向けての自主性を発揮し始めるなどの成果が一部で見られた。当初、2010年度より本格的な事業として開始する予定であったが、パートナー団体*であるWATCHとの間で、活動を本格的に実施するにあたり、その質を維持するための必要条件(プロジェクトや会計管理に関するもの)についての双方の合意が得られなかったため、2010年度以降の本格的な取り組みは見送ることとなった。なお、この経験を今後の新たなプロジェクト立案に活かすため、経緯を文書にまとめた。

3. 働く子どもたちへの取り組み

～地域住民の参画～

パートナー団体: CAPCRON

第2次3カ年計画の2年目として、親や雇い主を含めた地域住民との協力関係を築くため、移動教室、奨学金支援、移動クリニックなどの活動の中で地域住民へ活動への参加を積極的に呼びかけた。その結果、活動の開始時から地元青年会の協力を取り付けることに成功していたノンフォーマル教育*

(家事使用人として働く子どもたちのための教室運営)では、場所の提供だけでなく、子どもたちに対する健康診断などを行いつつ、自主的なクラス運営の実現に向けた働きかけを行った。それにより2010年度以降、ノンフォーマル教育は、シャプラニール側からの資金提供がほとんど必要のない形で継続される見込みとなった。

4. その他

(1) 新規プロジェクト

新規プロジェクトの検討は行ったものの有力な候補が得られず、2010年度以降、改めて検討することとした。

(2) カトマンズ事務所体制

当初の予定通り、総務会計部門のアシスタントを1名雇用了。その結果、プロジェクト管理部門3名、総務会計部門2名、補助員1名、計6名の現地職員および駐在員という体制となった。



技術指導を受けた後、トマト作りを始めた防災グループ (パートナー団体: RRN)

2010 年度計画

既存の2つのプロジェクトが2010年度で終了する。それに際して、地域防災では、より活動を広めるための第2フェーズを立案・実施する。その他にも2件程度の新規プロジェクトの立案を進める。また、駐在員とは別に長期調査員を派遣し、ネパールおよびインドにおける今後の活動展開に向けた調査を実施していく。

1. 貧困層に配慮した地域防災・開発

～3年間の活動を評価。第2フェーズ開始～

パートナー団体: RRN

2007年10月から取り組んできた防災グループをはじめとする地域防災・開発活動は、当初予定していたすべての活動を着実に実施し、2010年12月をもって終了となる。2010年4月に実施する評価作業をはじめ、これまでの成果と課題を整理し、目的を新たに設定し直した上で、第2フェーズの活動の立案と準備を並行して進める。第2フェーズは2011年1月からの開始を目指す。



住民によるハザードマップ (防災地図) の見直し (パートナー団体: RRN)

2. 働く子どもたちへの取り組み

～プロジェクト最終年。経験を社会へ還元～

パートナー団体: CAPCRON

この活動は2008年度から第2次3カ年計画として取り組んできたが、2010年度をもって予定通り終了とする。そのため、2010年度中におよそ6年間にわたる活動の評価を行う。また、これまでの経験や問題意識を広くネパール社会に伝えるべく、他のNGOや国際機関などと活動の結果などを有する機会を設ける。



働く少女を対象としたノンフォーマル教室 (パートナー団体: CAPCRON)



医師による移動クリニック。健康状態だけでなく仕事上の悩みに関して相談も受ける（パートナー団体：CAPCRON）

3. その他

(1) 新規プロジェクト

2011年度中の開始を目指し、新規プロジェクトを2つ、2010年度内に立案する。活動地域は都市部、農村部に限定せず、取り組む課題も中期方針に沿って必要と考えられるものを選定する。

(2) カトマンズ事務所体制

2010年4月、カトマンズ事務所長を交代する。

(3) 長期調査員の派遣

ネパールでのプロジェクトの拡大とインドでの今後の活動展開も念頭に置き、駐在員とは別に現地 NGO の調査などを行う長期調査員を派遣する。

ストリートチルドレン支援活動が終了します

前ダッカ事務所長 藤岡恵美子

2000年から続けてきたダッカでのストリートチルドレン支援活動が2010年度いっぱいでおしまいです。ダッカの南端、大きなバスターミナルのあるサエダバッド、ジャットラバリ地区で続けてきたこの活動は、ただ路上で暮らし、働く子どもたちを保護するというだけでなく、「地域への働きかけ」「子どもの参加」に力を注いできました。この間、何らかの形で私たちが支援してきたストリートチルドレンの数はのべ6,000人以上、家族の元へ返すことができた子どもも80人を超えました。

当初からゆくゆくは地域に活動を手渡すことを目指して住民との信頼関係を築いてきましたが、2008年度から本格的に地域の人々の寄付で活動にかかる費用を賄う試みが始まりました。2008年7月に地域の協力者を招いた集会には、地域の行政リーダー、商店主、教師、主婦、バスターミナルで働く人など、長年この活動を見守ってきた人々約70人が集まり、「これからは資金面でも協力してほしい」という私たちの話を真剣に聞いてくれました。

その後、人々はそれぞれのやり方で動き始め、野菜市

場の人は野菜を、米市場の人は米を、文房具店の人は文房具を、学校では募金を、といった形で協力してくれています。その結果、2010年度はすでにシャプラニールから送金する費用はパートナー団体スタッフの person 費のみ、ということまで来ました。

ダッカなど大都市ではユニセフの出資で行政によるストリートチルドレン支援活動も始まり、一切こういった支援がなかった10年前を考えると隔世の感があります。現地のパートナー団体のオポロジェヨ・バングラデシュも一緒に活動を始めた頃に比べると見違えるほど大規模な団体になりました。バングラデシュ全体のストリートチルドレンの状況は解決にはまだほど遠い状況ではありますが、この地域でのこの活動はオポロジェヨ・バングラデシュと地域の人々にお任せし、シャプラニールは少し離れて見守りながら、しばらくは家事使用人として働く少女の支援活動と農村部での活動に注力したいと思います。オポロジェヨ・バングラデシュへの資金提供はなくなっても、時々様子を見に行ったり、意見交換をしたりするような付き合いは続けていきます。

インド

2009 年度報告

インドにおける NGO を中心とした情報収集と調査を積極的に継続し、2008 年度に設置したインド活動検討委員会（インドタスクフォース）での今後のインドでの活動についての検討を引き続き行った。また、これまでインドにおけるシャプラニールの活動拠点として、またプロジェクトのパートナーとしても存在してきた DRCSC や、2008 年度まで 2 年間、家政婦として働く女性への支援活動を実施した PARICHITI（ポリチティ）に対しても小規模な資金提供を実施した。



2010 年度計画

1. インド活動検討委員会（インドタスクフォース）と小規模資金提供

インド活動検討委員会（インドタスクフォース）での検討を引き続き行う。また 2009 年度同様、DRCSC に対する組織支援として小規模な資金提供を実施する。

2. インド連絡事務所の設置

インドでの今後の長期的な活動に向けて、2008 年度の長期調査の提案であるインドにおける連絡事務所を設置する。連絡事務所の設置準備に向けたインド出張も東京から行い、新たなプロジェクト開始に向けた調査をカトマンズ事務所から実施する。

パートナー団体紹介 (インド)

PARICHITI (ポリチティ)
コルカタで活動する様々な NGO の活動家やジャーナリストらが有志で立ち上げた NGO。コルカタで唯一、家政婦として働く女性への支援を行う。1999 年設立。2006 年度からのパートナー。



DRCSC 環境学習活動



当会理事大橋の現地での NGO 調査

クラフトリンク

2009 年度報告



カトマンズで行われた WFTO 世界会議

5 年計画で飛躍の年と位置づけられた 2010 年へ向けて、活動全般のさらなる基盤強化と販売力の強化を目指した。新規の販売協力店舗数は着実に増えたものの、取引額は思うように伸びなかった。また、通信販売の売上強化策であったカタログの店頭無料配布がほとんど成果を挙げられず、それに替わる対策も打ち出せなかったため、低調な数字に留まった。商品開発・品質管理においては、ギフト向け商品など新たな商品群の開発を進めたほか、品質管理基準の策定へ向けた作業を開始した。現地生産者の定期的なモニタリング・評価*作業を開始したほか、WFTO（世界フェアトレード機関）*への加盟申請手続きを終えるなど、クラフトリンクの活動をより効果的に実施し、信頼性を高めるための基盤が強化された。

1. 販売促進

～売上の減少、新たな可能性～

ウェブサイト経由の申込を中心に、新規に取引を開始した店舗は 54 軒あり、2008 年度（59 軒）に続き順調に増えた。しかし取引額は前年度比 92% の約 1,900 万円に留まった。各地のスーパーおよび書店 100 店舗でのカタログ無料配布を初めて実施したが、ほとんど売上に繋がらず、年 2 回の予定を 1 回で終了した。



リユース布のカラフルバッグ

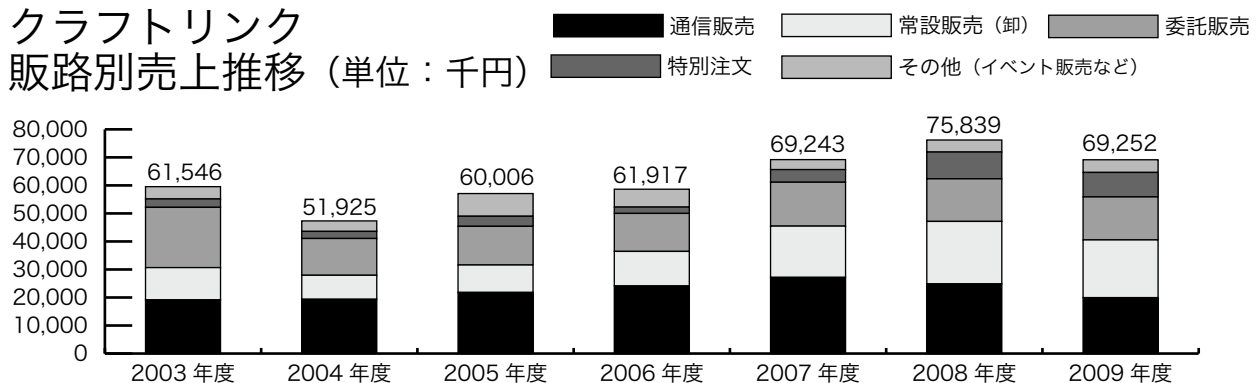
楽天市場*を含む通信販売の売上は前年度比 76% の 2,000 万と低調な結果となり、今後課題を残した。一方、数十万～百万単位の大口注文がいくつもあり、また新たに始まった生協のインターネット販売が好調だった。楽天市場への出店に関しては、出店料などの経費はかかるものの、独自でインターネット販売を行うことに比べさまざまな集客イベントが実施できること、また企業などからの特別注文のきっかけとなっていることなど利点が大いと考え、継続する。

2. 商品開発

～新たな商品群～

楽天市場で特に人気の高いのれんの品揃えを増やしたほか、ギフト向け商品を開発しカタログでギフト特集ページを作った。また、余り糸で織ったガ

クラフトリンク 販路別売上推移（単位：千円）



ムチャや端切れで作った手織布の小銭入れが好評だったことを受け、端切れを用いたリユース製品のラインナップを増やした。品質管理においては、商品の使用試験を継続したほか、一部商品については検査機関での商品試験を実施した。品質管理基準策定作業を始めたものの、2009年度内の策定までにはいたらず、2010年度に持ち越すこととなった。

3. 広報

～DVD完成～

クラフトリンクの活動紹介DVDが完成し、販売を開始した。ブランディング*に基づいたタグなどの改訂作業を開始し、2010年度以降商品への取り付けを目指す。他方、商品紹介を中心にプレスリリースを行い、18件（新聞6件、雑誌2件、書籍4件、他団体会報・機関誌1件、他社ウェブサイト1件）の掲載があった。



クラフトリンク紹介DVDの撮影の様子

4. フェアトレードの深化

～モニタリング・評価作業の開始、WFTOへの加盟～

生産者や現地パートナー団体の状況を把握し、クラフトリンクの活動が適切に行われているかどうかを確認するためのモニタリング・評価作業を開始した。

カトマンズで行われたWFTO（世界フェアトレード機関）の世界会議への出席を経て、加盟申請手続きを行った。

国内では積極的に講演依頼を受け、14回の外部講演のほか、シャプラニール主催の講演会および映画の上映会をそれぞれ1回ずつ行った。フェアトレード研究会（現・フェアトレード推進会議）などへ継続的に参加し、情報収集や他団体や他業種との関係作りに努めた。



クラフトリンク紹介DVD「いちばん身近な海外協力～クラフトリンク～」

手工芸品団体一覧（2010年3月末）

国	団体名	正式名称	主な取り扱い商品
ネパール	ACP	Association for Craft Producers	タルー・アップリケ、ニット製品
	BCP	Bhaktapur Craft Paper Ltd.	手すき紙カード
	ダッカ・ウィーブズ	Dhaka Weaves	ダッカ織
	マハグティ	MAHAGUTHI	手織布衣料、ニット製品
	サナ・ハスタカラ	SANA HASTAKALA	ミティラ・アート、アロー製品
	WSDP	Women's Skill Development Project	手織布バッグ
バングラデシュ	アーロン	BRAC/Aalong	ノクシカタ・タベストリー/小物
	ジュート・ワークス	CORR The Jute Works	ジュートバッグ/サンダル、素焼
	カルポリ	Karu Palli	小銭入れ、ブックカバー
	クムディニ	Kumudini Welfare Trust of Bengal	ろうけつ染、刺しゅう製品
	プロクリティ	Prokrittee	レジバッグ、手すき紙
	サリー・アン	Sally Ann	クリスマス・オーナメント
	シレイコン	Shilleikon	手織布バッグ、衣類
	プロボルトナ	UBINIG/Prabantana	手織布衣料、手ぬぐい
	YWCA	YWCA Bangladesh	指人形、ジュート製クッション

5. 運営体制の強化

～人員体制と人材の強化～



東洋大学の学生サークルによるフェア
リード商品の販売会（館林）

商品開発デザイナーおよびウェブサイト制作デザイナーを常勤の嘱託職員として雇用した。同時に職員の業務分担を見直し、営業に携わる人員を確保した。倉庫業務の外部委託に関する検討を進め、2010年8月の移転を前提に、外部委託することが決定した。職員の能力向上を目的としたリーダーシップ研修や、他業種とのネットワーク作りを目的とした研修プログラムに参加した。

2010 年度計画

2010年度は5カ年計画では飛躍の年と位置づけられ、売上も大幅に増加を見込んでいた。2009年度の状態を見る限り、景気動向の悪化や食品の取り扱いを断念したことなど、5カ年計画策定時とは大きく状況が異なっており、当初想定していた程度の販売額の増加が難しくなっている。しかし、生産者に対しより多くの仕事の機会を提供する使命、また海外協力活動の一環としてパートナー団体との取り組みを強化していく必要にかんがみ、活動の規模を広げて行かなくてはならない。これまで行ってきた、人員体制の強化、品質の向上、商品開発といった基盤作りの取り組みの成果を結実させることにより、売上の増加を一番の目標として取り組む。



カトマンズ事務所職員による生産者モニタ
リングの様子

1. 販売促進

～営業の強化とキャンペーン展開～

クラフトリンクの活動や商品に共感し、販売に協力してくれる店舗や団体を増やすことにより、購買層を広げることを目指す。そのため、販売協力店舗や生協などへ積極的な営業を行い、卸販売を伸ばす。また、よりわかりやすい商品説明を主眼としたカタログの充実、カタログ掲載商品の季節セールへの投入などによって通信販売の売上の回復を図る。社会的な関心を得られるような広報活動や取り組みを意識し、ジュートバッグ・キャンペーンやキャンドルナイト*へ向けたキャンドルの受注生産などによる販売促進を実施する。

秋にはノクシカタをテーマとしたフェアを開催する。ダッカ駐在員の帰国後、講演会という形で国内数カ所を回り、同時に各地の販売協力店舗への営業活動を行う。

2. 商品開発・品質管理

～クラフトリンクならではの商品を～

クラフトリンクの強みは伝統文化や技術・自然素材の活用から生まれる雑貨であるという視点から、「クラフトリンクへ行けば生活に必要なものが大抵手に入る」と言われるような品揃えを目指す。同時に、活動の裾野を広げるため、手すき紙のノートや封筒など、継続購入が期待できる手工芸品の開

発を行い、企業や生協での大規模な取り組みを呼びかける。また、根強い人気があるノクシカタ衣料のラインアップを充実させる。顧客が繰り返し買える消費財として石けんの導入を進める。品質管理を行う上での基準および方法を確立する。

3. 広報

～ニュース性のある活動を意識する～

常にニュース性のある活動を意識し、話題づくりを行うことによってマスメディアへの掲載を増やす。また、広報戦略のひとつとして衣類などへの織ネームや洗濯表示の取り付け、商品タグの変更を実施する。



東京経済大学で開かれたフェアトレード国際シンポジウム

4. フェアトレードの深化

～フェアトレードの普及へ貢献～

2009年度から開始したモニタリングや評価作業の結果をまとめ、クラフトリンクの年次報告書を日本語と英語で作成し、現地パートナー団体とも共有する。5月のフェアトレード月間ではフェアトレード推進会議を中心としたイベントの盛り上げに積極的に参加するほか、シャプラニール主催企画も実施し、フェアトレードの普及・推進に貢献する。また、販売協力店舗の経営者を主な対象とした現地視察を実施する予定で、参加者の学びと同時に現地に対する貢献を目的としたものにする。

5. その他

事務所移転の検討とあわせて店舗開設の可能性を探る。月次情報の一部英訳など、現地事務所の担当職員との情報共有を意識する。

フェアトレードの深化へ向けて

ここ数年、日本におけるフェアトレードの普及に貢献することをクラフトリンク活動の中に明確に位置付け、さまざまな取り組みを行ってきました。

シャプラニールも参加する「フェアトレード推進会議」を基盤として、フェアトレードをテーマにした国際会議の開催、全国各地で動き始めているフェアトレードタウン運動のつながりを深める取り組みなど、参加団体や全国のフェアトレード関係者間の連携が急速に進んだ1年でした。

2010年5月のフェアトレード月間には、「フェアトレード・サイクリング」や「フェアトレード・フィルム・フェスティバル」など、これまでになかったイベントが実現し、メディアにも取り上げられ関心を集めました。シャ

クラフトリンクチーフ 小松豊明

プラニールのオリジナル企画として「フェアトレード・ナイト」というお楽しみイベントも開催されました。

シャプラニールは、WFTO（国際フェアトレード機関）への加盟申請が受理されるのを待っている状況ですが、手工芸品への認証ラベル付与という新たな動きがある時期でもあり、世界的なフェアトレードの流れを見極めながら積極的に関わっていきたくと考えています。

このような取り組みを通じて、さらにフェアトレードが日本国内で普及し、より多くの生産者に仕事の機会を提供できるようになること、そして日本にいる私たちの自分自身の生活を見直すきっかけや地域の活性化につながっていくことに貢献していきたくと思います。

国内活動

2009 年度報告

1. 広く活動を伝える

～シャプラニールの活動姿勢を伝えた1年～

2009年度下半期にシャプラニールの広報強化と支援者拡大を目的とした広報タスクフォースを設置し、役員を交えて今後の広報活動について議論を行った。これまでの課題を整理し、「認知」→「共感」→「行動」という段階を踏んだ広報活動の重要性を確認した。



ブックレットシリーズ 12
「家事使用人として働く少女たち」

(1) メッセージの発信

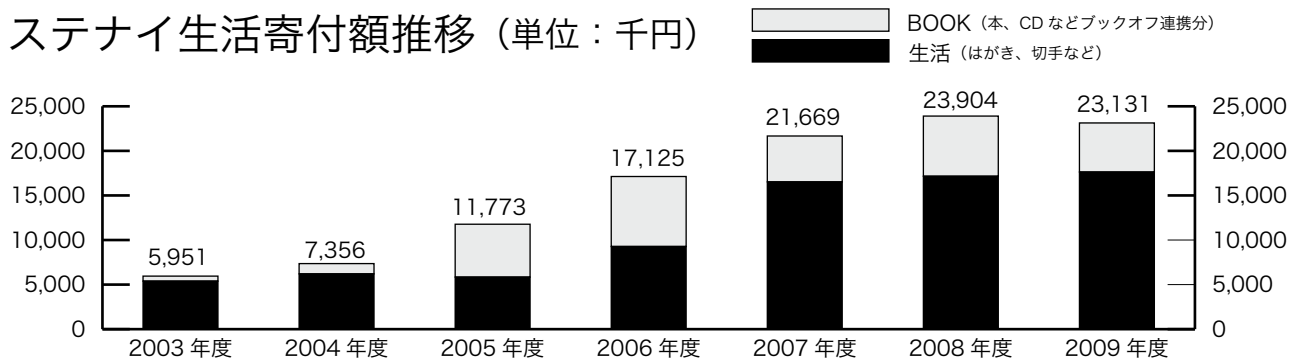
シャプラニールのイメージを統一するために印刷物のデザイン統一を図った。ウェブサイトも改訂し、「取り残された人々」への取り組みを整理して伝えた。また、東京事務局職員や会員・マンスリーサポーターといった支援者の想いを紹介し、共感や信頼感の醸成を目指した。

会報「南の風」やブックレット「家事使用人として働く少女たち」では、「取り残された人々」の周囲にいる人々への働きかけというシャプラニールの活動姿勢を意識して伝えた。

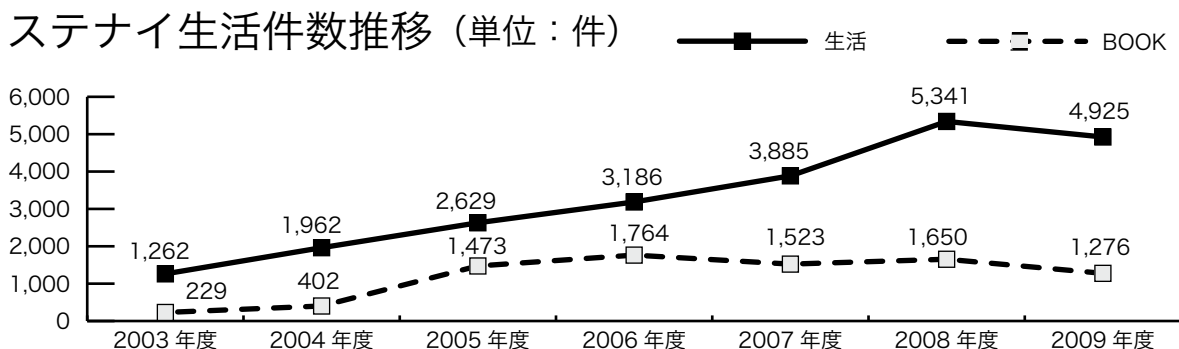
(2) マスメディアの露出度を高めるために

地方新聞社を重点にプレスリリース*の回数を増やし実施した結果、メディア掲載回数はステナイ生活*を中心に109件(新聞53件、雑誌13件、書籍8件、テレビ4件、ラジオ5件、他団体会報・機関誌13件、ウェブサイト12件、その他1件)となった。

ステナイ生活寄付額推移 (単位：千円)



ステナイ生活件数推移 (単位：件)



新たな試みとしてブログやクチコミマーケティング*を利用し、露出度向上を目指したが、効果は限定的であった。また、マスメディアのリストを整理・拡充するとともに、広報素材も整理し問い合わせに迅速に対応できるようにした。

2. 支援者を広げる

～認定 NPO 法人の活用に課題～

(1) ステナイ生活の拡大

ステナイ生活寄付額 2,300 万円（目標 2,310 万円／目標比 97%）

ステナイ生活寄付額は前年度比 97% となった。年賀はがきキャンペーン（12～3月）と、年間を通じたステナイ BOOK（本・CD の寄贈による寄付）への協力件数を伸ばせなかったことが影響し、6,200 件（前年度比 89%）にとどまった。初めて実施した使用済み切手キャンペーン（7～8月）では、新たに 160 名の方に協力を得ることができた。ステナイ生活のロゴを作成し、また支援者の方へ送る受領書などや案内状について専門家からアドバイスをもらい、改善を行った。

ステナイ生活

白浜美千代さん作成の「ステナイ生活」ロゴ

(2) 市民参加のひとつの方法として、支援者を拡大する

マンスリーサポーター新規申込人数 266 名

マンスリーサポート寄付額 1,650 万円（目標 1,730 万円 目標比 96%）

寄付額 4,142 万円（除くステナイ生活 目標 3,778 万円 目標比 110%）

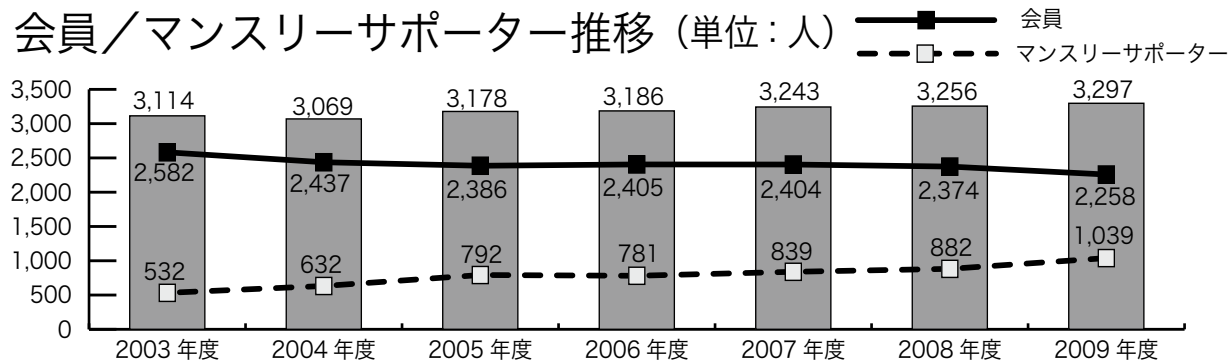
支援する活動を指定した寄付の増加、マンスリーサポーターの輪が広がった（前年度比 119%）ことにより、ステナイ生活を除く寄付額は 4,142 万円、前年度比 120% となった。マンスリーサポーターキャンペーン（10～12月）では、バングラデシュのストリートチルドレンが職業訓練の一環で作成した新聞紙の封筒を活用して申し込みを呼び掛け、期間中 190 名の申し込みがあった。

2009 年 9 月の認定 NPO 法人の取得に伴い、寄附金控除の周知を行ったが、認定 NPO 法人取得による寄付件数の変化はまだ現れていない。また、クレジットカードによる会費の支払いサービスを開始したり、会員継続者への記念品送付回数を増やしたりすることで、より長く支援いただけるよう改善を行った結果、入会 1 年以内の会員の退会率が下がった。



ステナイ生活でボランティアする皆さん

会員／マンスリーサポーター推移（単位：人）





デザイン・制作会社の協力で作成した活動紹介パンフレット。



ステナイ生活のボランティアグループがフリーマーケットに参加。



サリーを着て、南アジアのお菓子をつくって食べた「もっと知りたい講座」

3. 企業・団体との協働

～「専門性を活かした協働」で協力を得る～

シャプラニールはこれまで企業・団体に対して市民参加の視点から社員・職員の参加による社会貢献を呼びかけてきた。2009年度はより広く効率的な呼びかけを行うために、企業・団体リストを充実させ、約1,000の企業・団体へ「ステナイ生活」と「クラフトリンク」への参加を呼びかけた。その結果、企業・団体の中で、シャプラニールの団体名や活動の認知度は高まってきたており、2010年度も継続して働きかけを行う。

2009年度は「専門性を活かした協働」を意識した提案を実施し、活動紹介パンフレットの制作支援やステナイ生活の新しい収集物(使用済みトナーカートリッジ・インクカートリッジ、2010年4月開始)の追加につながった。

団体賛助会員16団体のうち8団体を訪問し、関係強化に努めたほか、他団体が主催する勉強会やネットワークにも積極的に参加した。また、CSR推進NGOネットワーク* (事務局:国際協力NGOセンター/JANIC)に委員として参加し、「地球規模の課題解決に向けた企業とNGOの連携ガイドライン」の作成に貢献した。

4. 支援者やボランティアが 出会える場作りとフォローアップ

～ボランティアによる企画が活発に～

「国際協力入門講座」を年間22回実施し、新たに159名へシャプラニールの活動を伝えることができた。シャプラニールに継続して関わってもらう場として始めた「もっと知りたい講座」は、6回実施し72名が参加した。参加者は、カレー作りやサリーの着付け、シャプラニール劇団のワークショップなど、ボランティアの協力を得ながら南アジアの文化などを体験した。事務局で活動するボランティアとの交流を深めた結果、売上を寄付するためにフリーマーケットに自主的に出店するボランティア・グループができ、2010年度に実施する「つどい」の実行委員には多くのボランティアが参加している。

学生を中心とした38名のユース・チームの実行委員の協力を得て、8月の「中学生・高校生フォーラム」、2月の大学生向けの「The ☆ Forum」を実施し、それぞれ18名、12名の参加があった。

前ダッカ事務所長が10月から11月にかけて全国28カ所で、家事使用人として働く少女についての講演を行う全国キャラバンを開催し、約850名が参加した。

5. 開発教育

～教材の貸し出しとスタディツアー～

シャプラニールの支援活動の紹介パネルとして、家事使用人として働く少女やフェアトレード生産者のパネルなどを、クラフトリンク販売協力店舗や学校を中心に39件の貸し出し、9件の販売を行った。より多くの人々に南

アジアの課題、シャプラニールの取り組みを伝えることができた。夏と春にバングラデシュへのスタディツアーを開催し、合計で29名が参加し、海外協力の現場を体感した。

2010 年度計画

1. 広く活動を伝える

～「認知」「共感」を意識した広報活動～

広報タスクフォースでの議論を受け、「認知」→「共感」→「行動」といった段階を意識した広報活動を行う。シャプラニールの認知度を高めるために、マスメディアに取り上げられるような話題性のあるキャンペーンを目指す。また、シャプラニールの活動の姿勢や理念をわかりやすく伝えると同時に海外活動の動きや成果をライブ感をもって伝え、共感者を増やしていく。どの段階にも関わるウェブサイトについては、分析・効果検証と改善作業を行う。

(1) 認知度を高める

シャプラニールの認知度を高めるために、マスメディアにも取り上げられる機会の多い「ステナイ生活」や「クラフトリンク」を題材にしてキャンペーンを実施する。また、従来「クラフトリンク」や「ステナイ生活」で出展してきたイベントに継続的に参加することに加え、新たなイベントへの出展も検討する。

(2) 共感を得る

海外活動の動きや成果をライブ感をもって伝えていくために、支援活動単位の説明資料を作成するほか、ブログを有効に活用する。また、日本の貧困問題など国内で関心の高いテーマとシャプラニールの活動経験を結びつけた講座を開催する。さらに、ステナイ生活の協力事例やクラフトリンク商品紹介などを、写真や動画、クラフトリンクの商品タグを活用して情報発信を行い、共感につなげていく。

2. 支援者を広げる

～「行動」としてのマンスリーサポート、ステナイ生活～

(1) 継続的な支援者の拡大

継続的な支援者としてマンスリーサポーターを中心に支援者を増やしていく。10～12月のマンスリーサポーターキャンペーン前から、シャプラニールの認知度を高めるための企画を実施し、300名の申込みを目標とする。また、認定NPO法人であることを活かした、寄付の開発や新たな協力拡大を行う。

(2) ステナイ生活の普及

2009年度に引き続き、切手キャンペーン（7月）、大掃除キャンペーン（12月）、年賀はがきキャンペーン（12～3月）を実施する。ステナイ生活を普及するためのイベントを開催する。



中学生・高校生フォーラムで「NGOを作ろう！」のプログラムで発表する参加者。



高田馬場・早稲田周辺で流通する地域通貨「アトム通貨」のイベントに出展。

3. 企業・団体との協働

～本業や関心分野を意識した丁寧な提案～

2010年度は、引き続き社員・職員の参加による社会貢献を広く企業・団体へ呼びかけて行くのと同時に、企業・団体の本業を活かした社会貢献や関心分野に応じた協働の提案を行う。2010年度に計画されているステナイ生活やクラフトリンクの各種キャンペーンに企業や団体の協賛や参加を得る働きかけを行う。

4. 支援者が出会える場作りとそのフォローアップ

～「つどい」、前カトマンズ事務局長帰国キャラバン～

会員、寄付者、ボランティアが集い、交流し、議論する宿泊型の企画「つどい」をボランティアの実行委員とともに9月に実施する。また、全国の支援者の方に活動報告を行うために、5月に帰任する前カトマンズ事務局長が講演会を行う「全国キャラバン2010」を6～7月にかけて実施する。

8月には、東京のユース・チームとともに青少年向けの研修イベントである「中学生・高校生フォーラム」を実施する。また、年間を通じた企画として、引き続き、シャプラニールと初めて出会う場でもある国際協力入門講座と、継続してボランティアが参加できる場として「もっと知りたい講座」を開催する。



全国キャラバン2009の様子。山形の小学校で。

5. 開発教育

～スタディツアーは2回開催～

開発教育教材の貸出、販売を継続して行う。現地の活動に直接触れる機会として、ネパール（8月予定）とバングラデシュ（12月予定）それぞれ1回スタディツアーを実施する。

今動き出すきっかけライブ2010 in わかやま

前・国内活動グループチーフ 勝井裕美

毎夏に楽しく海外協力について考える企画「中学生・高校生フォーラム」。このイベントの企画・運営を行うのは大学生を中心としたボランティアによる実行委員会です。

大学生時代に実行委員として活躍した猪瀬絢子さんは企業へ就職し、東京から和歌山に転勤となりました。仕事にも、和歌山での生活にも、慣れてきた彼女は、持ち前の行動力で仲間を集め、ボランティア・ユースチーム「AMAYAKA(W)」(和歌山のアルファベット表記の逆順)を結成。2010年3月、チャリティライブ「今動き出すきっかけライブ2010inわかやま」を開きました。当日は、シャ

プラニールの開発教育教材でもあるバングラデシュのストリートチルドレンの写真も展示し、約70名の方が来場し、大いに盛り上がったようです。中には、ステナイ生活で集めているはがきや切手なども持ってきて下さった方も。その後、彼女はライブで集まった資金を、「ストリートチルドレン支援に」と、東京事務局に届けに来てくれました。

寄付はもちろんありがたいのですが、それ以上に後ろ盾になるような人、物、場所、資金がない中で、自分の想いを原動力にイベントを実施した彼女に嬉しく、感謝の気持ちでいっぱいです。

組織の充実

2009 年度報告

2009 年度は 8 月に国税庁から「認定特定非営利活動法人（認定 NPO 法人）」として認定を受け、これにより 2009 年 9 月 1 日以降の寄付が寄附金などの税の優遇措置（寄附金控除）の対象となることができた。また、2009 年度は 5 カ年活動計画の中間年となり、中期方針を見直した結果、これまで通りとすることとした。

1. 組織基盤の充実

～マンスリーサポーターの拡大と組織力強化の年～

2010 年 3 月末現在、会員数 2,258 名（正会員 1,120 名、賛助会員 1,138 名）、マンスリーサポーター 1,039 名。会員が 116 名減少し、マンスリーサポーターが 157 名増加した。不況にもかかわらず、10 月から 12 月に行われたキャンペーンで、190 名の新しいマンスリーサポーターを得た。

2009 年度は、業務の効率的な運営と職員一人ひとりの能力向上を目的とした職員研修にも力を入れ、長期研修を含み 10 名がさまざまな研修を受講した。

2. 労働環境の整備

～業務の効率化を目指して～

事務作業の効率化を目指し、業務分掌を見直すとともに新しい業務管理システムの導入のための準備を行った。また、職員の時間外労働をはじめとする就業規則の見直し作業を行った。

3. 市民社会組織としての責任と貢献

ODA が日本の NGO との協働を模索する動きが活発化してきており、当会へも協働の可能性や意見を求められる機会が増えている。そのほかにも各団体や委員会へ役員・職員を派遣し、外部講師は計 38 回行った。

4. その他

2009 年度は、認定 NPO 法人*を取得するとともに、それに伴う事務作業を行った。また、東京事務局が災害で被災した際の危機管理マニュアル策定の準備を行った。

2010 年度計画

5カ年活動計画の4年目に当たる2010年度は、組織の規模が飛躍的に拡大する年と位置付けられている。これまで3年間の成果を結実させる重要な年にしたい。

1. 組織基盤の充実

～多くの市民が参加する海外協力の会～

2010年度は、シャプラニールの認知度を上げることで、支援者やマンスリーサポーターの拡大を目指す。また、職員の能力向上のため積極的に研修に参加させる。

2. 労働環境の整備

2009年度改定された時間外労働にかかる就業規則を運用し、運用規程を随時見直す。業務管理システムの導入に伴う業務の効率化についてもモニタリングしながら、改善していく。

3. 市民社会組織としての責任と貢献

2010年度も、各団体、委員会に役員、職員を派遣する。また、これまでの経験と知見を活かして外部調査などの業務を受託し、知的貢献部門を拡充する。

4. その他

クラフトリンクの倉庫業務を外部委託するとともに、人員増に伴い手狭になってきた事務所の移転を検討する。コンプライアンス*の視点で事務局業務を見直す作業に取りかかる。

付表

■国内カレンダー

2009 年度

4月25日	評議員会
5月29日～31日	支援者と会う旅（北九州・山口）
6月27日	会員総会
8月8日～11日	中学生・高校生フォーラム
8月7日～16日	スタディツアー（バングラデシュ）
10月3日	評議員会
10-12月	マンスリーサポーターキャンペーン
10-11月	全国キャラバン 2009
12～2月	大掃除キャンペーン（ステナイ生活）
12～3月	年賀はがきキャンペーン（ステナイ生活）
2月12日～14日	The ☆ forum（大学生対象の宿泊型勉強会）
3月13日～24日	スタディツアー（バングラデシュ）

2010 年度（予定）

5月8日	評議員会
6月19日	会員総会
6～7月	全国キャラバン 2010
8月10日～13日	中学生・高校生フォーラム
8月16日～25日	スタディツアー（ネパール）
9月18日～19日	つどい
10月	評議員会
10月	クラフトフェア
10～12月	マンスリーサポーターキャンペーン
12月	スタディツアー（バングラデシュ）
12～1月	フェアトレード講演会
12～2月	大掃除キャンペーン（ステナイ生活）
12～3月	年賀はがきキャンペーン（ステナイ生活）
1月	クラフトリンク現地視察ツアー
2月	The ☆ forum（大学生対象の宿泊型勉強会）

■各地域連絡会の主な活動

シャプラニール札幌連絡会

- ・全国キャラバン 2009 受入（くすみ書房ソクラテスのカフェ、10月24日）

シャプラニール仙台ポンドウの会

- ・せんだいぐるーかるサミット（活動紹介と手工芸品販売、せんだいメディアテーク、6月14日）
- ・せんだい地球フェスタ（手工芸品販売、仙台国際センター、9月19日）
- ・写真展「子どもの時間を取り戻す～バングラデシュの家事使用人として働く少女への支援活動」（仙台国際センター交流コーナー、10月5日～30日）
- ・全国キャラバン 2009 受入（仙台国際センター、10月18日）

シャプラニールいわき連絡会

- ・いわき・ふくしま地球市民フェスティバル（アクアマリンパークさんかく倉庫潮目の交流館、10月18日）
- ・平バプテスト教会バザー（クラフト販売、平バプテスト教会、10月31日）
- ・ゲスト・ティーチャー（6年生を対象にビデオ上映とお話、いわき市立第六小学校、3月16日）

シャプラニールとちぎ架け橋の会

- ・フェスタ my 宇都宮（クラフト販売・フリーマーケット、宇都宮市駅東公園、4月12日）
 - ・宇都宮大学新入生歓迎プログラム（講演会・ワークショップ、宇都宮大学、4月15日、22日、5月13日）
 - ・世界フェアトレード・デー・イベントー日本と世界の伝統をつなぐー（フェアトレードファッションショーにモデル参加・講演、宇都宮井澤屋、5月17日）
 - ・松が峰教会バザー（クラフト販売、カトリック松が峰教会、5月31日）
 - ・モニョゴロ村エコツアー（里山の保全と多文化共生を学ぶワークショップ、市貝町、6月25日）
 - ・とちぎグローバルセミナー（ワークショップ、とちぎ国際交流センター、7月12日）
 - ・とちぎインターナショナルフェスティバル（クラフト販売・ワークショップ・サリー着付、栃木県子ども総合科学館、10月3日）
 - ・全国キャラバン 2009 受入（とちぎ国際交流センター、10月17日）
 - ・宇都宮大学祭（クラフト販売・フリーマーケット・模擬店、宇都宮大学、11月21日～23日）
 - ・新年会（パーティ・ゲストスピーカーによるお話「パレスチナ西岸地区報告」、とちぎ国際交流センター、1月23日）
 - ・勉強会（学生メンバーによる卒業論文要旨発表「国際平和維持活動について」ほか、とちぎ国際交流センター、2月6日）
 - ・NPO 見本市（クラフト販売・活動紹介パネル展示、とちぎ健康の森、2月7日）
 - ・勉強会（「新自由主義型開発の終焉と共生」、とちぎ国際交流センター、3月6日）
- このほか毎月の定例会と通信「KAKEHASHI（季刊）」の発行を実施。

シャプラニール新潟地域連絡会

- ・全国キャラバン 2009 受入（長岡市民センター、11月2日）

シャプラニール金沢連絡会

- ・全国キャラバン 2009 受入（石川県女性センター、11月3日）
- ・人形劇講演（「ダッカのストリートチルドレン」、金沢市平和町児童館、1月29日）

シャプラニール地域連絡会関西（せつつ・大阪・南大阪・兵庫の4つの地域連絡会が合同で実施）

- ・講師派遣（「シャプラニールのフェアトレード」大阪教育大学、6月30日）
 - ・講師派遣（「ストリートチルドレンの現状と日本の貧困～シャプラニールの活動を通して」大阪薫英女子短大、7月9日）
 - ・夏祭り「The 賑い」出店（大阪国際交流センター、7月26日）
 - ・講師派遣（「バングラデシュのストリートチルドレンの現状と日本の貧困」JICA 国際協力セミナー、茨木市、8月1日）
 - ・講師派遣（「ストリートチルドレンの現状と日本の貧困～シャプラニールの活動を通して」京都光華女子大学、8月5日）
 - ・講師派遣（「ストリートチルドレンの現状と日本の貧困～シャプラニールの活動を通して」龍谷大学、10月14日）
 - ・全国キャラバン 2009 受入（大阪府立男女共同参画・青少年センター、11月8日）※ 受入に際し、ロールプレイワークショップを自主制作
 - ・講師派遣（「路上で働く子ども」龍谷大学大阪梅田キャンパス、11月25日）
 - ・講師派遣（「バングラデシュのストリートチルドレンと私」大阪府立福井高校、11月26日）
 - ・講師派遣（「バングラデシュのストリートチルドレン」、新森小路小学校、2月2日）
 - ・講師派遣（「バングラデシュの家事使用人として働く少女たち」桃谷高校、2月8日）
 - ・関西 NGO 協議会主催フリーマーケット出展（大阪市、2月14日）
 - ・定例会特別編（メンバー留学・海外研修帰国報告会、3月21日）
- このほかにも定例会を5月、6月、8月、9月、10月に実施。

シャプラニール北九州／福岡連絡会

- ・ao-ao ナイト「バングラデシュに出会う夜」（東京事務局スタッフによる講演、一生もん SHOP 緑々〈あおあお〉、11月20日）
- ・全国キャラバン 2009 受入（旦過市場内大講堂、11月21日）

シャプラニール中津連絡会

- ・アースデイ中津（ダイハツ九州アリーナ、4月19日）
- ・全国キャラバン 2009 受入（南部公民館、11月22日）

■助成金関連一覧

【バングラデシュ】

財団法人大竹財団：ストリートチルドレン支援

独立行政法人国際協力機構（JICA）：洪水常襲地でのコミュニティ開発、サイクロン常襲地でのコミュニティ開発

全国青少年教化協議会：サイクロン復興支援

財団法人地球市民財団：少女グループ支援

日本労働組合総連合会（連合）愛のカンパ：農村開発

外務省・日本 NGO 連携無償資金協力：マイクロクレジット原資、ストリートチルドレン支援

三井住友銀行ボランティア基金：バングラデシュ・最貧困層

UI ゼンセン同盟ボランティア活動：バングラデシュ・児童教育

独立行政法人郵便貯金・簡易生命保険機構国際ボランティア貯金：バングラデシュ・農村開発

【ネパール】

独立行政法人国際協力機構（JICA）：ネパール・防災農村開発

外務省・日本 NGO 連携無償資金協力：ネパール・働く子どもたち

財団法人庭野平和財団：ネパール・貧困女性生活向上支援

【日本】

財団法人国際ボランティア貯金普及協会：全国キャラバン 2009

郵便事業株式会社年賀寄附金：クラフトリンク紹介 DVD 制作

■協力団体・委員会一覧（2009年度、法人格略）

- ・国際協力 NGO センター（JANIC）（理事長）
- ・日本 NPO センター（副代表理事）
- ・東京ボランティア・市民活動センター（運営委員）
- ・NGO一労働組合国際協働フォーラム（委員）
- ・JICA バングラデシュ PRDP 国内支援委員会（委員）
- ・JICA マイクロファイナンス研究会（委員）
- ・東京都国際交流・協力 TOKYO 連絡会（委員）
- ・開発教育協会（DEAR）（会員）
- ・社会的責任向上のための NPO/NGO ネットワーク（会員）
- ・シーズ＝市民活動を支える制度をつくる会（会員）
- ・CSR 推進 NGO ネットワーク（コアメンバー）
- ・フェアトレード推進会議（メンバー）

■会員・寄付者分布

※（）内は2008年度の実績

都道府県名	会員	マンスリーサポーター	都道府県名	会員	マンスリーサポーター
北海道	75 (79)	47 (41)	滋賀県	11 (12)	5 (6)
北海道計	75 (79)	47 (41)	京都府	51 (50)	19 (21)
青森県	6 (7)	5 (3)	大阪府	115 (119)	44 (37)
岩手県	9 (11)	3 (3)	兵庫県	52 (54)	26 (23)
宮城県	28 (29)	13 (11)	奈良県	18 (21)	8 (5)
秋田県	13 (12)	3 (6)	和歌山県	6 (7)	3 (3)
山形県	11 (12)	5 (4)	近畿計	253 (263)	105 (95)
福島県	26 (28)	12 (10)	鳥取県	3 (4)	3 (3)
東北計	93 (99)	41 (37)	島根県	4 (5)	1 (2)
茨城県	31 (34)	13 (12)	岡山県	18 (21)	16 (13)
栃木県	30 (35)	14 (13)	広島県	26 (28)	15 (11)
群馬県	21 (24)	12 (11)	山口県	20 (22)	10 (8)
埼玉県	116 (124)	50 (45)	中国計	71 (80)	45 (37)
千葉県	130 (138)	52 (52)	徳島県	10 (10)	2 (2)
東京都	613 (669)	303 (258)	香川県	6 (6)	2 (1)
神奈川県	281 (284)	121 (108)	愛媛県	15 (17)	9 (7)
関東計	1,222 (1,308)	565 (499)	高知県	4 (4)	2 (2)
山梨県	21 (18)	6 (4)	四国計	35 (37)	15 (12)
長野県	30 (37)	19 (11)	福岡県	53 (57)	36 (32)
新潟県	36 (32)	13 (11)	佐賀県	4 (4)	2 (2)
富山県	11 (11)	0 (0)	長崎県	13 (15)	13 (8)
石川県	22 (26)	5 (4)	熊本県	7 (9)	1 (1)
福井県	8 (7)	2 (2)	大分県	17 (18)	9 (9)
甲信越計	128 (131)	45 (32)	宮崎県	5 (7)	2 (1)
岐阜県	13 (16)	12 (10)	鹿児島県	16 (17)	5 (7)
静岡県	57 (67)	22 (16)	沖縄県	11 (16)	8 (8)
愛知県	87 (98)	31 (23)	九州沖縄計	126 (143)	76 (68)
三重県	24 (27)	14 (11)	海外	22 (26)	3 (1)
東海計	181 (208)	79 (60)	海外計	22 (26)	3 (1)
			不明	52 (—)	18 (—)
			総計	2,258 (2,374)	1,039 (882)

上記数字には現在会費などの支払いが滞っている方（会員26名、マンスリーサポーター12名）、お申込みを頂いてからまだ会費などをお支払いいただけていない方（会員12名、マンスリーサポーター4名）も含まれています。

■執行部一覧（2010年3月31日現在）

○代表理事

中田豊一

○理事

池田恵子、岩城幸男、大橋正明、里見駿介、城千聡、田尻佳史、筒井哲朗、中本かほる、森田恵

○監事

雨森孝悦、梅沢良雄、福澤郁文

○評議員

荒木美奈子、五十嵐理奈、磯野昌子、岩附由香、遠藤絵理子、遠藤大輔、菅野智篤、斎藤千宏、坂口和隆、佐竹町子、下澤嶽、ジュエル M.Q.、庄野真代、白土謙二、鈴木隆二、田中治彦、田辺洋一郎、辻村聖子、東田芳治、徳木久人、永井幸子、

長畑誠、新村恵美、西野桂子、子島進、前澤哲爾、山崎みどり、吉田ユリノ

○事務局長

筒井哲朗

○事務局職員

秋庭智也、石井大輔、植田貴子、内山智子（バングラデシュ駐在員）、小嶋淳史、勝井裕美、京井杏奈、小松豊明、白幡利雄（ネパール駐在員）、菅原伸忠、杉山和明、田中優子（バングラデシュ駐在員、2009年9月入職）、福岡あき子、藤岡恵美子、藤崎文子（ネパール駐在員）、松本芳美

2009 年度決算と 2010 年度収支予算

2009 年度決算

2009 年度の決算にかかる会計監査は公認会計士佐藤泰久氏により 5 月 13 日に終了し、理事の業務執行の状況および財産の状況についての監査は同日監事により行われ、当会の会計報告書は 2010 年 3 月 31 日現在の財政状態および同日をもって終わる期間の収支の状態を適正に表示している旨の報告を受けた。

2009 年度の収支状況は、収入合計 2 億 1,795 万円（前期比 1,039 万円減）、支出合計 2 億 2,714 万円（前期比 408 万円減）となり、その結果 919 万円の赤字となった。前年度に続き 2007 年度に発生したサイクロンの復興支援活動を 2009 年度（2010 年 1 月末まで）も引き続き実施したことからその経費 706 万円を計上した。各会計の収支は、本体会計 282 万円の赤字、緊急救援会計では 637 万円の赤字となった。

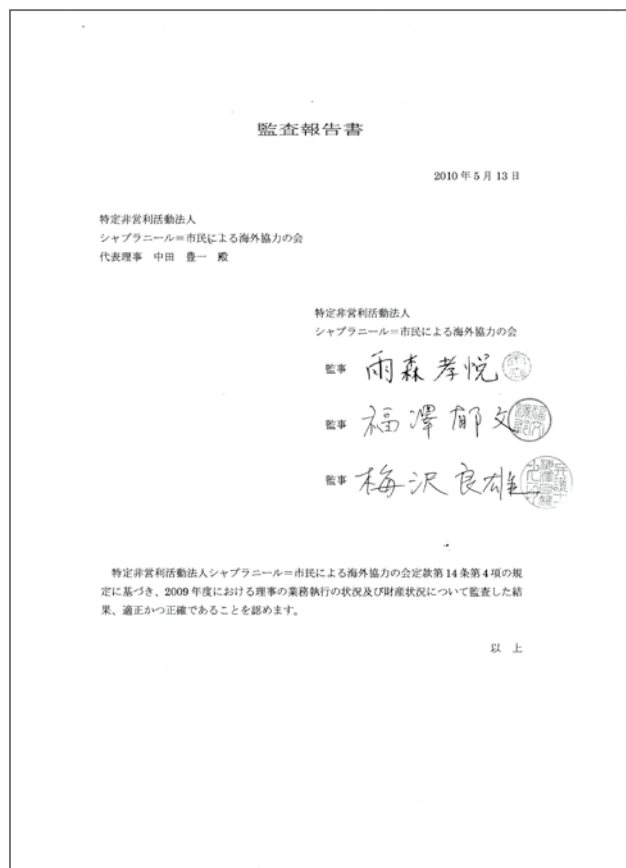
- ・会費収入は 2,236 万円（前期比 85 万円減、3.7% 減）と微減。
- ・寄付金収入は 6,386 万円（前期比 557 万円増、9.6 % 増）と順調に伸びた。とりわけマンスリーサポート（前期比 203 万円増、14.0% 増）、基金・指定寄付（前期比 222 万円増、48.7% 増）の伸びが顕著であった。
- ・助成金・補助金収入（外務省、JICA、ボランティア貯金、民間助成金）は 5,300 万円（前期比 199 万円増、3.9% 増）と前期を若干上回ったものの、予算比では 2,104 万円もの未達となり、当期の財政状況を大きく逼迫させる要因となった。
- ・クラフトリンク活動は、収入 6,944 万円（前期比 703 万円減、9.2% 減）と前期を 1 割近く下回る結果となり、事業収支においても 291 万円の赤字となった。2005 年度以降売上を伸ばしてきたが、当期は減収に転じた。
- ・知的貢献活動収入は当初より大幅な減収が見込まれたため、予算もそれを考慮したものとしたが、委託事業等が低調だったため予算比 290 万円の未達成となった（緊急救援収入を除いた収入合計に占める割合は 2.2%）。
- ・海外活動費（海外活動管理費を除く）は、予算比 74.9%（バングラデシュ活動費 73.3%、ネパール活動費 78.2%、インド活動費 88.2%）となった。
- ・みらいファンドは、預託 7 件（140 万円）が満期を迎え、全て再預託となった。また寄付分については新規に 1 件、100 万円を受け入れた。よって期末残高は 2,315 万円（預託分 1,150 万円、寄付分 1,161 万円）となっている。

- ・支出合計（緊急救援会計を除く）に占めるスタッフ人件費の割合は 37.2% であった。
- ・自己財源率は前期比 2.1 ポイント減の 75.7% となった。

2010 年度収支予算

2010 年度収支予算案は収入合計 2 億 6,890 万円（前期予算比 2,003 万円増）、支出合計 2 億 6,547 万円（前期予算 1,659 万円増）を計上し、343 万の収支差額を見込んでいる。収入において前期実績比にして 5,095 万円の増収となっているが、そのうち約 4,000 万円弱は助成金・補助金収入によるもので、現時点において既に契約締結などにより確定しているものである。

- ・支出合計（緊急救援会計を除く）に占めるスタッフ人件費の割合は 33.7%。
- ・自己財源率は 66.9%。



2009年度決算（2009.4.1～2010.3.31）
2010年度収支予算（2010.4.1～2011.3.31）

特定非営利活動に係る事業会計収支計算書

（単位：円）

科 目	2009年度 収支予算	2009年度決算				2010年度 収支予算	構成比
		本 体	緊急救援	合 計	予算差異 (千円)		
I. 収入の部							
会費収入	23,300,000	22,355,220		22,355,220	△945	22,500,000	8.4%
寄付金収入	60,880,000	63,860,789		63,860,789	2,981	67,600,000	25.1%
一般寄付	15,180,000	17,407,003		17,407,003	2,227	17,500,000	6.5%
マンスリーサポーター	17,300,000	16,548,850		16,548,850	△751	20,200,000	7.5%
物品寄付	23,100,000	23,131,073		23,131,073	31	24,000,000	8.9%
基金・指定寄付	5,300,000	6,773,863		6,773,863	1,474	5,900,000	2.2%
緊急救援収入	0		691,880	691,880	692	0	0.0%
助成金・補助金収入	74,044,000	53,002,774		53,002,774	△21,041	88,919,000	33.1%
外務省	14,517,000	14,223,550		14,223,550	△293	17,684,000	6.6%
国際協力機構（JICA）	35,880,000	23,580,207		23,580,207	△12,300	60,000,000	22.3%
郵便貯金・簡易生命保険管理機構	9,511,000	4,939,674		4,939,674	△4,571	3,220,000	1.2%
その他の民間助成金	14,136,000	10,259,343		10,259,343	△3,877	8,015,000	3.0%
事業収入	90,472,000	77,988,838		77,988,838	△12,483	89,852,000	33.4%
クラフトリンク活動収入	77,000,000	69,438,516		69,438,516	△7,561	78,400,000	29.2%
国内活動収入	5,722,000	3,703,257		3,703,257	△2,019	6,007,000	2.2%
スタディツアー	3,767,000	1,859,646		1,859,646	△1,907	2,208,000	0.8%
ユースフォーラム	800,000	961,640		961,640	162	800,000	0.3%
キャラバン	730,000	573,691		573,691	△156	425,000	0.2%
開発教育教材	220,000	103,800		103,800	△116	90,000	0.0%
入門講座等	205,000	204,480		204,480	△1	2,484,000	0.9%
知的貢献活動収入	7,750,000	4,847,065		4,847,065	△2,903	5,446,000	2.0%
他団体ツアー受入	950,000	1,597,002		1,597,002	647	600,000	0.2%
委託事業	4,800,000	1,559,277		1,559,277	△3,241	3,846,000	1.4%
講師派遣	2,000,000	1,690,786		1,690,786	△309	1,000,000	0.4%
雑収入	180,000	48,434		48,434	△132	30,000	0.0%
当期収入合計(A)	248,876,000	217,256,055	691,880	217,947,935	△30,928	268,901,000	100.0%
前期繰越収支差額	56,788,571	3,685,749	53,102,822	56,788,571	0	47,593,602	
収入合計(B)	305,664,571	220,941,804	53,794,702	274,736,506	△30,928	316,494,602	
II. 支出の部							
海外活動費	102,039,000	82,754,679		82,754,679	△19,284	123,163,000	46.4%
バン格拉デシュ活動費	55,139,000	40,417,447		40,417,447	△14,722	73,028,000	27.5%
ネパール活動費	23,697,000	18,536,334		18,536,334	△5,161	26,162,000	9.9%
インド活動費	891,000	785,533		785,533	△105	1,100,000	0.4%
海外活動管理費	22,312,000	23,015,365		23,015,365	703	22,873,000	8.6%
クラフトリンク活動費	76,517,000	72,348,330		72,348,330	△4,169	78,202,000	29.5%
売上原価	23,137,000	21,321,802		21,321,802	△1,815	24,236,000	9.1%
販売費	15,467,000	14,188,778		14,188,778	△1,278	14,794,000	5.6%
一般管理費	37,913,000	36,837,750		36,837,750	△1,075	39,172,000	14.8%
国内活動費	13,355,000	11,757,524		11,757,524	△1,597	8,654,000	3.3%
スタディツアー	3,310,000	1,206,941		1,206,941	△2,103	1,758,000	0.7%
ユースフォーラム	785,000	739,712		739,712	△45	800,000	0.3%
キャラバン	935,000	800,779		800,779	△134	865,000	0.3%
開発教育教材	117,000	55,200		55,200	△62	80,000	0.0%
入門講座等	100,000	96,118		96,118	△4	185,000	0.1%
その他活動	3,564,000	4,420,191		4,420,191	856	2,570,000	1.0%
地域活動費	300,000	92,510		92,510	△207	300,000	0.1%
国内活動管理費	4,244,000	4,346,073		4,346,073	102	2,096,000	0.8%
知的貢献活動費	3,600,000	1,204,758		1,204,758	△2,395	700,000	0.3%
他団体ツアー受入	400,000	798,126		798,126	398	400,000	0.2%
委託事業	2,900,000	86,034		86,034	△2,814	0	0.0%
講師派遣	300,000	320,598		320,598	21	300,000	0.1%
広報活動費	19,511,000	19,413,798		19,413,798	△97	18,967,000	7.1%
広報費	4,957,000	4,577,856		4,577,856	△379	4,636,000	1.7%
広報活動管理費	14,554,000	14,835,942		14,835,942	282	14,331,000	5.4%
緊急救援活動費	1,440,000		7,064,094	7,064,094	5,624	0	0.0%
支援企画管理費	21,054,000	19,985,479		19,985,479	△1,069	24,041,000	9.1%
本部管理費	11,360,000	11,614,242		11,614,242	254	11,742,000	4.4%
みらいファンド繰入	0	1,000,000		1,000,000	1,000	0	0.0%
当期支出合計(C)	248,876,000	220,078,810	7,064,094	227,142,904	△21,733	265,469,000	100.0%
当期収支差額(A)-(C)	0	△2,822,755	△6,372,214	△9,194,969	△9,195	3,432,000	
次期繰越収支差額(B)-(C)	56,788,571	862,994	46,730,608	47,593,602	△9,195	51,025,602	

特定非営利活動に係る事業会計貸借対照表

(2010年3月31日現在)

(単位:円)

科 目	本 体	緊急救援	みらい	合 計
I 資産の部				
1.流動資産	47,188,378	46,730,608	0	64,017,114
現金預金	6,085,189	11,391,298		17,476,487
売掛金(注1)	6,932,024			6,932,024
有価証券		5,437,438		5,437,438
商品	18,131,318			18,131,318
貯蔵品	6,547,349			6,547,349
未収金	78,750			78,750
前払費用	484,230			484,230
前払金	8,929,518			8,929,518
特別会計貸付		29,901,872		(29,901,872)
2.固定資産	14,739,825	0	23,114,866	37,854,691
什器備品	415,584			415,584
電話加入権	74,984			74,984
その他無形固定資産	106,785			106,785
退職積立預金	12,951,968			12,951,968
敷金	581,040			581,040
基本金積立預金	609,464			609,464
みらいファンド預金			23,114,866	23,114,866
資産合計	61,928,203	46,730,608	23,114,866	101,871,805
II 負債の部				
1.流動負債	47,503,777	0	0	17,601,905
商品券	55,000			55,000
未払金	1,944,509			1,944,509
前受金	10,935,995			10,935,995
預り金	165,500			165,500
預り源泉所得税	255,404			255,404
預り住民税	174,900			174,900
未払消費税	956,100			956,100
賞与引当金	3,114,497			3,114,497
特別会計借入	29,901,872			(29,901,872)
2.固定負債	12,951,968	0	11,500,000	24,451,968
みらいファンド預託金			11,500,000	11,500,000
退職給付引当金	12,951,968			12,951,968
負債合計	60,455,745	0	11,500,000	42,053,873
III 正味財産の部				
基本金	609,464			609,464
みらいファンド			11,614,866	11,614,866
次期繰越収支差額 (うち当期収支差額)	862,994 (△2,822,755)	46,730,608 (△6,372,214)		47,593,602 (△9,194,969)
正味財産合計	1,472,458	46,730,608	11,614,866	59,817,932
負債及び正味財産合計	61,928,203	46,730,608	23,114,866	101,871,805

(注記事項)

1. 売掛金の貸倒引当金は249,932円である。

特定非営利活動に係る事業会計財産目録

(2010年3月31日現在)

(単位:円)

科	目	金	額
I 資産の部			
1.流動資産			
現金	現金手許有高	676,014	
預貯金	郵便貯金 馬場下町郵便局	63,434	
	郵便振替口座 馬場下町郵便局	5,421,159	
	三菱東京UFJ銀行 高田馬場支店	11,315,880	
売掛金(注1)	手工芸品関連	6,932,024	
有価証券	公社債投信 野村證券株式会社	5,437,438	
商品		18,131,318	
貯蔵品	切手等	6,547,349	
未収金	株式会社 小学館	78,750	
前払費用	日新火災海上保険株式会社	339,226	
	三井住友海上火災保険株式会社	83,831	
	ファーストサーパー株式会社	40,115	
	理想科学工業株式会社	21,058	
前払金	有限会社ぐらするーつ	35,400	
	クラブパートナー団体(JUTE WORKS)	673,623	
	パートナー団体プロジェクト費繰越分	909,745	
	当会カトマンズ事務所	7,310,750	
	流動資産合計		64,017,114
2.固定資産			
什器備品		415,584	
電話加入権		74,984	
その他無形固定資産		106,785	
退職積立預貯金	三菱東京UFJ銀行 高田馬場支店	12,951,968	
敷金	財団法人 早稲田奉仕園	581,040	
基本金積立預金	三菱東京UFJ銀行 高田馬場支店	609,464	
みらいファンド預金	三菱東京UFJ銀行 高田馬場支店	23,114,866	
	固定資産合計		37,854,691
	資産合計		101,871,805
II 負債の部			
1.流動負債			
商品券		55,000	
未払金	財団法人 早稲田奉仕園	48,676	
	藤ビルメンテナンス株式会社	13,650	
	ヤマト運輸株式会社	220,637	
	株式会社大塚商会	26,744	
	楽天株式会社	71,464	
	佐川急便株式会社	77,773	
	オフィックス株式会社	28,811	
	株式会社ニフティ	31,500	
	株式会社ラクス	37,731	
	社会保険事務所	750,646	
	東京労働局	165,952	
	当会ダツカ事務所	454,591	
	その他	16,334	
前受金	財団法人 庭野平和財団	410,411	
	財団法人 大竹財団	376,712	
	外務省	10,082,882	
	手工芸品関連	65,990	
預り金		165,500	
預り源泉所得税		255,404	
預り住民税		174,900	
未払消費税		956,100	
賞与引当金		3,114,497	
	流動負債計		17,601,905
2.固定負債			
みらいファンド預託金		11,500,000	
退職給付引当金		12,951,968	
	固定負債計		24,451,968
	負債合計		42,053,873
	正味財産		59,817,932
			101,871,805

(注記事項)

1. 売掛金の貸倒引当金は249,932円である。

【参考】

(参考1)

クラフトリンク活動収支

(単位:千円)

区分	2008年度 決算	2009年度 予算	2009年度 決算	2010年度 予算
売上高	75,839	77,000	69,252	78,400
売上原価	22,174	23,137	21,322	24,236
期首商品棚卸高	17,473	19,649	19,649	18,131
当期商品仕入高	24,351	23,137	19,804	24,236
海外仕入	20,371	18,852	16,190	20,511
国内仕入	3,980	4,285	3,614	3,725
期末商品棚卸高	19,649	19,649	18,131	18,131
売上総利益	53,665	53,863	47,930	54,164
販売費及び一般管理費	48,207	53,380	51,027	53,966
販売費	13,858	15,467	14,189	14,794
一般管理費	34,349	37,913	36,838	39,172
営業利益	5,458	483	△3,097	198
営業外収益	627	0	187	0
営業外費用	0	0	0	0
経常利益	6,085	483	△2,910	198

(参考2)

みらいファンド残高増減

(単位:千円)

区分	期首残高	2009年度の増減		期末残高
		減	増	
みらいファンド預託金	11,500	1,400	1,400	11,500
みらいファンド	10,615	0	1,000	11,615
合計	22,115	1,400	2,400	23,115

(参考3)

緊急救援活動収支

(単位:千円)

項目	金額	根拠
1. 直接費		
海外送金(07サイクロン復興支援等)	2,460	年間経費のうち17%相当(注1)
ダッカ事務所諸経費	1,596	
ダッカ駐在員人件費	1,831	
小計①	5,887	"
2. 間接費		
東京事務所管理費	1,177	直接費の20%
小計②	1,177	
合計	7,064	

(注1) 2009年度バングラデシュ全プロジェクト費に占めるJJS復興支援活動費の割合

(参考4)

収支計算書推移

(単位:千円)

	2007年度	2008年度	2009年度
I. 収入の部			
会費収入	23,265	23,210	22,355
寄付金収入	59,198	58,288	63,861
緊急救援収入	42,900	222	692
助成金・補助金収入	32,112	51,013	53,003
事業収入	84,945	95,376	77,989
クラフトリンク活動収入	69,244	76,466	69,439
国内活動収入	3,536	3,947	3,703
知的貢献活動収入	12,165	14,963	4,847
雑収入	591	228	48
当期収入合計(A)	243,011	228,337	217,948
前期繰越収支差額	65,444	59,676	56,789
収入合計(B)	308,455	288,013	274,737
II. 支出の部			
海外活動費	80,925	92,263	82,755
クラフトリンク活動費	68,994	70,381	72,348
国内活動費	4,057	7,286	11,758
知的貢献活動費	9,742	8,698	1,205
広報活動費	13,342	14,049	19,414
緊急救援活動費	38,455	3,620	7,064
支援企画管理費	17,067	18,202	19,985
本部管理費	16,196	16,725	11,614
みらいファンド繰入額			1,000
当期支出合計(C)	248,778	231,225	227,143
当期収支差額(A)-(C)	△5,767	△2,888	△9,195
次期繰越収支差額(B)-(C)	59,676	56,789	47,594

(参考5)

貸借対照表推移

(単位:千円)

	2007年度	2008年度	2009年度
I 資産の部			
1.流動資産	84,309	77,841	64,017
うち 商品	17,473	19,649	18,131
2.固定資産	32,370	31,655	37,855
資産合計	116,679	109,497	101,872
II 負債の部			
1.流動負債	22,527	19,597	17,602
2.固定負債	23,270	21,887	24,452
うち みらいファンド預託金	12,800	11,500	11,500
負債合計	45,798	41,484	42,054
III 正味財産の部			
基本金	609	609	609
積立金	0	0	0
みらいファンド	10,595	10,615	11,615
次期繰越収支差額	59,676	56,789	47,594
正味財産合計	70,881	68,013	59,818
負債及び正味財産合計	116,679	109,497	101,872

役員一覧 (2010 年度)

代表理事

中田豊一 (参加型開発研究所 代表)

理事

池田恵子 (静岡大学 教員)

大橋正明 (恵泉女学園大学 教員)

城千聡 (練馬ボランティア・市民活動センター ボランティアコーディネーター)

田尻佳史 ((特活) 日本 NPO センター 理事・事務局長)

田辺洋一郎 (PR コンサルタント、ボランティア)

筒井哲朗 (シャプラニール 事務局長)

長沢恵美子 (経済団体職員)

中本かほる (財団法人福岡 YWCA 理事)

森田恵 (ボランティア)

監事

雨森孝悦 (日本福祉大学教授 国際センター長)

梅沢良雄 (弁護士)

評議員

荒木美奈子 (お茶の水女子大学 教員)

五十嵐理奈 (福岡アジア美術館 学芸員)

磯野昌子 (かながわ開発教育センター 理事・運営委員)

岩城幸男 (会社員)

岩附由香 ((特活) ACE 代表)

遠藤絵理子 (シャプラニール地域連絡会大阪 代表)

遠藤大輔 (シャプラニールユース・チーム ボランティア)

萱野智篤 (北星学園大学 教員)

斉藤千宏 (日本福祉大学 教授)

坂口和隆 ((特活) 日本 NPO センター)

佐竹町子 (シャプラニールユース・チーム 幹事)

里見駿介 (財団法人海外職業訓練協会 (OVTA) 国際アドバイザー)

下澤嶽 (ジュマ・ネット 代表)

白土謙二 (株式会社電通 執行役員)

ジュエル・M.Q. (シャプラニール劇団)

庄野真代 (歌手、(特活) 国境なき楽団 代表)

鈴木隆二 (ぐらする一つ 代表)

田中治彦 (上智大学教授、(特活) 開発教育協会 評議員)

田中政行 (会社員・ボランティア)

辻村聖子 (恵泉女学園 講師)

東田芳治 (ボランティア)

永井幸子 (UI ゼンセン同盟)

長畑誠 (一般社団法人あいあいネット 専務理事)

新村恵美 (目白大学 教員)

子島進 (東洋大学 准教授)

前澤哲爾 (山梨県立大学 教員)

福澤郁文 (株式会社デザイン FF 代表・グラフィックデザイナー)

山崎みどり (全国友の会中央部 中央委員)

吉田ユリノ (シャプラニールとちぎ架け橋の会 代表)

主な掲載記事

身近に考えて」

バン格拉デシユ家事使用人の問題



参加者の質問に答える藤岡美津子さん

提学べる場 貸金アップ、体罰減も

国際協力NGO「シャプラニール＝市民による海外協力の会」（本部・東京都）の全国キャラバン講演会が、中津市の南部公民館であった。全国27カ所で開催されているが、県内では中津だけ。

NGOの藤岡さん 中津市で講演会

2005年5月から「シャプラニール」を身に付けている藤岡美津子さんは、中津市で講演会を行いました。講演会では、シャプラニールの活動内容や、家事使用人の現状、体罰の現状などについて、藤岡さんが自身の経験をもとに話しました。藤岡さんは「シャプラニール」の活動を通じて、家事使用人の生活が改善され、体罰も減ったと報告しました。また、シャプラニールの活動が、貸金アップや体罰減にもつながっていると話しました。

大分合同新聞（夕刊） 2009年11月28日

22 あなたのはがきが、だれかのために

2月も後半となり、旧暦のお正月「春節」も過ぎ、本格的にO10年を迎えました。そうは言っても数日前に雪が降り、春の訪れはまだ未だ遠い小淵沢の新年です。しかし、日に日に暖かくなると心体が軽くなり、部屋の掃除をして、不要なものを捨て、洋服を処分し、身の回りをきれいにしたい気持ちが高まります。けれども、「ゴミ」が捨てられないまま、気持ちよく暮らしたい。そんな気持ちのとき、古

八ヶ岳の風に吹かれて

の米穀補助用品が購入でき、CD3枚ではバングラデシユの大人が読める本が2冊あります。例えは単本2冊を贈るとストリートチルドレンのサポートを希望するNGOです。

春に向けて 捨てない生活



支援センター 供・シニア

援活動に役立つ「あなたのはがき」が、だれかのために「シャプラニール」を31日まで実施しています。送られてきた本やCDなど、バングラデシユの首都タカが、家事使用人として働く子どもたちが約15万人の子どもたちへ支援活動に役立つ「あなたのはがき」が、だれかのために「シャプラニール」を31日まで実施しています。送られてきた本やCDなど、バングラデシユの首都タカが、家事使用人として働く子どもたちが約15万人の子どもたちへ支援活動に役立つ「あなたのはがき」が、だれかのために「シャプラニール」を31日まで実施しています。

長野日報 2010年2月21日

不用本買い取り バングラ支援



支援センター 供・シニア

転居の際、ご不用の本などは「こちらへ」。NPO法人「シャプラニール」(新宿区)が、引っ越しでいらなくなった本やCDなどを、バングラデシユなどの支援活動に生かす「引っ越し時期NPOキャンペーン」を5月末まで展開している。

引っ越し時期NPOキャンペーン

バングラデシユの首都タカには、使用人として働く少女が約1万人おり、長時間労働で給料も少ないため、ほんの少しの支援でも、現地では、料理やミシンの訓練や読み書きの授業などを無料で受けられる支援センターを運営している。本2冊が100円で買取り、取られた場合、現地の少女が勉強で使うボールペンを6本買えるという、シャプラニールは「捨ててしまおうよ」の気持ちで、国際協力に役立つ「あなたのはがき」と呼びかけている。お問い合わせは「シャプラニール」(03・3302・7863、日、月曜と祝日休み)。

読売新聞（朝刊）都民版 2010年3月17日

2009年度分野別掲載のべ回数

理念や歴史	13回
人物紹介	11回
海外支援活動	60回
クラフトリンク	36回
国内活動	
ステナイ生活	76回
(うちステナイBOOK: 29回)	
ボランティア	4回
イベント	20回
(うちスタディツアー: 3回)	

シャプラニール用語集

海外活動

■エンパワメント

人々の意識と能力の向上。または向上すること。用法によって多くの定義が存在するが、シャプラニールでは主に、当事者が自ら課題を認識し、その解決に向けて行動するための力がつくことを指して用いている。

■家事使用人

バングラデシュはもちろんのこと、南アジアでは中産階級以上の多くの家庭が、貧しい家庭の女の子をいわゆる「お手伝いさん」として置いている。その多くはきちんとした雇用関係がなく、劣悪な条件で働かされている。このためシャプラニールでは、職業としての家政婦と区別するためにこの表現を用いている。

■寡婦

夫を事故や病気で亡くした女性のことを、便宜的に指す。女性に対する社会的な制約が多く、就業機会も非常に限られているバングラデシュの社会において、子どものいる、いないにかかわらず厳しい生活状況におかれている場合が多い。

■コミュニティ防災

自然災害に対して、事後の対応よりも予防を重視する防災に注目が集まってきているが、従来の政府や公的機関によるトップダウン的なものではなく、地域社会・住民による活動を中心とするものを指して言う。

■ストリートチルドレン

都市部の路上を生活の基盤とする子どもたちのこと。狭義には親元を離れ、家をもたずに生活する子どもを指すが、広義には家族ともにスラムなどに住みながら一日の大半を路上で暮らしている子どもを含めて用いる。

■チョール（中洲）

バングラデシュの公用語であるベンガル語で中洲を意味する。雨期になると消滅してしまうものから、100年以上前から存在し、学校や市場が存在するものまで、さまざまなものがある。チョールに住む人々の生活は、一般の地域のそれよりも厳しく、公共サービスや生活基盤整備が遅れている。

■取り残された人々

シャプラニールの中期方針（2007～2011）で示された、取り組みを強化していくべきと考える活動の当事者。経済社会発展や開発援助から「取り残された人々」のことを指す。

■取り残された人々を取り巻く人々

前項と同様に中期方針で、「取り残された人々」とその周辺にいる地域の人々と交わるとともに、それを支援する地域の NGO や中産階級の人々、行政や企業などに積極的に働きかけ、あるいは巻き込みながら活動を進めることをうたっている。

■ノンフォーマル教育

学校教育（フォーマル教育）とは別に、特定の集団に対して行われる組織化され、体系化された教育活動を指す。1960年代、学校教育が十分普及していなかった第三世界における教育戦略として普及した概念。

■働く子どもたち

狭義のストリートチルドレンと区別するため、親元から通い、または住み込みで働いている子どもたちのことを指して用いている。こうした子どもへの支援活動は、バングラデシュ、ネパールともに都市部で取り組んでいる。

■パートナー団体

シャプラニールと理念や価値観を共有し、ともに活動する現地 NGO のこと。地域や課題によって多くの組織がシャプラニールとパートナーシップを結んでおり、現場での活動実施を担っている。

■マイクロクレジット／マイクロファイナンス

貧困層を対象に、貧困緩和を目的として行われる少額の無担保融資のこと。バングラデシュのグラミン銀行によって開発されたモデルが世界的に知られており、シャプラニールも1980年代後半から活動の一部として取り組んできた。

クラフトリンク

■キャンドルナイト／100万人のキャンドルナイト

2003年の夏至（6月22日）に第1回が行われ、それ以降夏至と冬至を中心とした期間の夜に、日本各地でさまざまなイベントが行われている。夜の2時間電気を消して、省エネや平和について考えようという呼びかけ。

■クラフトリンク南風（なんふう）

2003年よりシャプラニールのフェアトレード部門を「クラフトリンク」と呼んでいる。これにはクラフト（手工芸品）を通して人々がつながり（リンク）、作る人も使う人も共生できる社会づくりを目指すという思想が込められている。また、クラフトリンクが扱う製品を南（南アジア）の風（人々、生活、文化、活動）を伝えるものとして捉え、ブランド名を「南風（なんふう）」とした。

■世界フェアトレード機関 (WFTO)

フェアトレードを実施する団体、それを支持する団体、個人、研究者などが加盟するフェアトレード推進組織。加盟団体は70カ国350以上にのぼる。

■フェアトレード

日本語では公正貿易と訳される。生産者の生活向上を目的とした、対等な貿易の関係。ヨーロッパやアメリカを中心に広がり、近年日本でも関心が高まっている。

■フェアトレードタウン

フェアトレード運動を支援することを宣言した地方自治体(市町村、郡、県)を「フェアトレード・タウン」と呼ぶ。イギリスのガースタングという町が第一号。世界18カ国、600以上の地方自治体が宣言している。

■ブランディング

企業・団体などが他と差別化し、市民にその組織の「らしさ」やイメージを浸透させるため行う活動。ロゴマークやウェブサイトを含む広報物など、市民とのあらゆる接点で意識される。

■モニタリング・評価

クラフトリンクの活動が指針にのっとり適正に行われているか、生産者の生活向上に役立っているかを確認するために、定期的な生産者への訪問やパートナー団体からの評価といった作業を行う。その結果は報告書にまとめる予定。

■楽天市場(らくてんいちば)

日本最大級のインターネット上の通信販売ショッピングモール。店舗数は65,000を超える。シャプラニールは2003年から「クラフトリンク南風(なんふう)」の店舗名で出店している。

国内活動

■CSR推進NGOネットワーク

世界の「貧困と開発」の問題解決に寄与するために、企業とNGOの相互理解を促進し、より強固な協力関係を築き、効果的なCSR活動が実施されることを目指して2008年4月に結成されたネットワーク。事務局は、国際協力NGOセンター(JANIC)となっている。

■クチコミマーケティング

個人のブログなどで団体の紹介や商品などの記事を書いてもらうことで、クチコミによる広報・宣伝効果を狙ったマーケティング手法。

■ステナイ生活

書き損じはがき、使用済み・未使用切手、プリペイドカード、本、CD、DVDなどを収集し、国内で換金し海外活動に役立てる参加方法。

■プレスリリース

新聞、テレビ、雑誌などのマスメディア・報道機関に情報を提供し、ニュースとしてその情報を社会に広める広報手法。客観的な情報として伝わるため情報の信頼性が高まる。

組織の充実

■コンプライアンス(Compliance、法令遵守)

法令などを遵守してルールに従って活動を行うこと。なお最近では守るべき規範は法令に限らず、社会通念、倫理や道徳を含むと解釈されることが多い。他方、団体を取りまくさまざまなステークホルダーとの信頼関係を強化する取り組みとしても位置付けられている。

■認定NPO法人

NPO法人のうちその運営組織および事業活動が適正であることならびに公益の増進に資することにつき一定の要件を満たすものとして、国税庁長官の認定を受けたものをいい、当該団体への寄付金は寄附金控除の適用が認められるなど税制上の特例措置が講じられる。

特定非営利活動法人



＝市民による海外協力の会

◆東京事務所（火曜日から土曜日 10:00～18:00 月曜・日曜祭日定休）
169-8611 東京都新宿区西早稲田 2-3-1 早稲田奉仕園内
TEL 03-3202-7863 FAX 03-3202-4593
E-mail info@shaplaneer.org Web site <http://www.shaplaneer.org/>

◆ダッカ事務所
9/19 Iqbal Road, Block-A, Mohammadpur, Dhaka-1207, Bangladesh, G.P.O BOX 332

◆カトマンズ事務所
Kupondole, Lalitpur, Nepal, P.O.Box23884